

Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows Vista のプライバシーに関する声明

ハイライト

声明 補足条項

このページ内

個人情報

お客様の選択

情報の用途

重要な情報

お問い合わせ先

Windows Vista のプライバシーに関する声明

この通知は、[Windows Vista のプライバシーに関する声明](#)の全文からの抜粋であり、Windows Vista とすべての Windows Vista Service Pack におけるデータ収集およびその使用に関する概要について説明します。インターネットをとおして通信を行う機能に重点が置かれており、すべての機能を網羅するものではありません。マイクロソフトによるその他のオンラインまたはオフラインのサイト、製品、あるいはサービスには適用されません。

[Windows Server 2008\(英語の可能性あり\)](#) におけるデータの収集およびその使用に関する詳細を検索

個人情報

- Windows Vista の特定の機能では、個人情報を収集または使用することを許可するかどうかについてお客様に確認する場合があります。これらの機能および個人情報の用途に関する追加情報については、[Windows Vista のプライバシーに関する声明\(英語の可能性あり\)](#) におけるデータの収集およびその使用に関する詳細を検索

Windows Vista の機能の中には、お客様の許可を得たうえで、個人情報をインターネットを通じて共有できるものがあります。

- お客様がソフトウェアを登録する場合には、個人情報の提供が求められます。
- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

お客様の選択

- インターネットを通じて個人情報を転送する Windows Vista の機能を使用するか無効にするかを選択することができます。
- インターネットをとおしてその他の種類の情報を転送する機能に対しても、さまざまな制御を利用できます。
- インターネットを利用して Windows Vista がよりよく動作できるよう、個人情報を収集しない一部の機能は既定で有効になっています。これらの機能を無効にしてもかまいません。
- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

情報の用途

- 収集された情報は、お客様がご使用になっている機能を有効にするため、またはお客様が要求したサービスを提供するために使用されます。マイクロソフトの製品やサービスの向上を図るためにも使用されます。お客様が登録を行った場合、お客様の個人情報は、お客様の許可を得たうえで、ご使用になっている製品やサービスについてお客様にフィードバックを求めたり、重要な更新やソフトウェアに関する通知を配布したり、イベントを告知したり、新製品のリリースを通知したりするために使用されます。
- サービスの向上を図るために、サービスを委託している会社に情報を提供する場合があります。これらの会社は、情報の機密を保持することを要求されており、他の目的で情報を使用する

ことは禁じられています。

- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

重要な情報

- Windows Vista にはライセンス認証が必要です。ライセンス認証は、ソフトウェアの違法コピーを減らし、マイクロソフトのお客様に期待どおりのソフトウェア品質を提供することを目的としています。ライセンス認証には、いかなる個人情報も必要ではありません。
- Windows Vista のプライバシーに関する声明 [Windows Vista のプライバシーに関する声明](#) の全文には、特定の Windows Vista の機能に関する補足情報へのリンクが含まれています。
- 補足情報を含む、印刷用の「Windows Vista のプライバシーに関する声明」全文は、[ここ](#) (英語の可能性あり) におけるデータの収集およびその使用に関する詳細を検索
- お客様のパーソナル コンピュータ、個人情報、および家族のインターネット利用を保護する方法の詳細については、[オンライン セキュリティ リソース](#) (英語の可能性あり) におけるデータの収集およびその使用に関する詳細を検索

[ページのトップへ](#)

お問い合わせ先

マイクロソフトがプライバシー保護をどのように実施しているかの詳細については、[Windows Vista のプライバシーに関する声明](#)の全文をご覧ください。または、当社の [Web フォーム](#) (英語の可能性あり) におけるデータの収集およびその使用に関する詳細を検索

[ページのトップへ](#)

Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows Vista のプライバシーに関する声明

ハイライト 補足条項

このページ内 [Windows Vista のプライバシーに関する声明](#)

[個人情報の収集と用途](#) この声明は、Windows Vista およびすべての Windows Vista Service Pack を対象としています。以前のリリースの Windows Vista、このオペレーティング システムの一部である特定のソフトウェア、または関連するサービスについては、画面の右側で、関連するソフトウェアおよびサービスのプライバシーに関する声明を参照してください。

[お客様のコンピュータに関する情報の収集と用途](#)

[選択および管理](#)

[お客様の情報のセキュリティ](#) 特定の機能については、画面の右側で、Windows Vista の機能のプライバシーに関する声明の補足情報を参照してください。

[リテイ](#)

[プライバシーに関する声明の抜粋を表示](#)

[このプライバシーに関する声明の変更](#)

最終更新日 :2007 年 11 月

[詳細情報](#)

Microsoft (以下、マイクロソフト) は、お客様がパーソナル コンピューティングに期待されているパフォーマンス、機能、および利便性を提供する一方で、お客様のプライバシーを保護することに万全を期しています。以下に記載されている Windows Vista および Windows Vista Service Pack 1 のプライバシーに関する声明をお読みください。また、Windows Vista およびお客様がご使用になるマイクロソフトのサービスにおけるデータの収集およびその使用に関する詳細については、右側にある補足情報の一覧を参照してください。

この開示は、インターネットをとおして通信を行う機能に重点が置かれており、すべての機能を網羅するものではありません。他のマイクロソフト サイト、サービス、および製品には適用されません。

個人情報の収集と用途

マイクロソフトの収集した個人情報は、お客様が要求または許可したサービスを提供し、業務を遂行するために、マイクロソフトおよびその子会社や関連会社によって利用されます。また、使用する製品やサービスについてお客様にフィードバックの追加情報を求める場合や、ソフトウェアに関する重要なお知らせ、バグ報告フォームや調査フォームを介しての製品やサービスの改善、イベントの告知、新製品発売のお知らせなどにも利用される場合があります。

この声明に明記した場合を除き、お客様から提供された個人情報を、お客様の同意なく、第三者に譲渡することはありません。マイクロソフトでは、梱包、発送、配達などの配送業務、製品やサービスに関する質問への対応、サービスの統計的な分析など、一部のサービスを他の企業に委託することもあります。マイクロソフトは、これらの会社に対して、サービスの提供に必要な最小限の個人情報のみを開示し、情報をそれ以外の目的で使用することを禁止しています。

マイクロソフトは法律に基づき開示しなければならない場合、または開示行為が必要であると合理的に判断できる以下の場合に、個人情報を開示することがあります。(a) マイクロソフトに対する法の要請または法的手続きに応じる場合、(b) マイクロソフトの権利を保護または防御する場合 (この契約の執行を含む)、(c) マイクロソフトの従業員やエージェント、マイクロソフトのソフトウェアやサービスのユーザー、または公衆の安全を確保するために緊急に行動する場合。

マイクロソフトのソフトウェア、サイト、およびサービスが収集した個人情報は、マイクロソフトやその子会社、系列会社、または代理店の所在する米国またはその他の国において保管、処理される場合があります。マイクロソフトのソフトウェア、サイト、またはサービスを利用することで、このような自国以外へのデータ転送に同意されたものとします。マイクロソフトは、米国商務省が発表した、欧州連合 (EU) からのデータの収集、使用、保管に関する Safe Harbor 規制に準拠しています。

[ページのトップへ](#)

お客様のコンピュータに関する情報の収集と用途

インターネット対応の機能は、お客様のコンピュータに関する情報 ("標準的なコンピュータ情報") を、お客様が訪れた Web サイトおよびお客様が使用した Web サービスに送信します。一般的に、この情報は個人を特定できるような情報ではありません。標準的なコンピュータ情報には、一般的に、IP アドレス、オペレーティング システムのバージョン、ブラウザのバージョン、ハードウェア ID (デバイスの製造元、デバイス名、およびバージョンを示す)、地域と言語の設定などが含まれます。特定の機能、ソフトウェア、またはサービスがマイクロソフトに情報を送信する場合は、標準的なコンピュータ情報も併せて送信されます。ここで示す Windows の各機能およびマイクロソフトのソフトウェアやサービスに関するプライバシーの詳細では、収集される追加情報の種類とその用途について説明します。

[ページのトップへ](#)

選択および管理

インターネットを通じて個人情報を転送する Windows Vista の機能を使用するか無効にするかを選択することができます。また、提供したい個人情報も決定できます。インターネットをとおしてその他の種類の情報を転送する機能に対しても、さまざまな制御を利用できます。インターネットを利用して Windows Vista がよりよく動作できるよう、個人情報を収集しない一部の機能は既定で有効になっています。これらの機能を無効にしてもかまいません。特定の機能または関連する製品やサービスで行われる情報の収集、使用、および選択に関する詳細については、右側の一覧にあるリンクをクリックしてください。

[ページのトップへ](#)

お客様の情報のセキュリティ

マイクロソフトは、お客様の情報のセキュリティを保護することに万全を期しています。マイクロソフトでは、お客様の情報を、承認されていないアクセス、使用、または公開から保護するために、さまざまなセキュリティ技術および手法を使用しています。たとえば、お客様から提供された情報は、管理された施設内のアクセス制限のあるコンピュータ システムに保管されます。マイクロソフトによってインターネットを通じてクレジットカード番号やパスワードなどの機密情報が

転送される場合は、SSL (Secure Socket Layer) プロトコルなどの暗号化を使用して保護されます。

[ページのトップへ](#)

このプライバシーに関する声明の変更

マイクロソフトでは、マイクロソフトの製品やサービスの変更およびお客様のフィードバックを反映するために、このプライバシーに関する声明を更新する場合があります。この声明に変更があった場合は、この声明のトップにある「最終更新日」が更新されます。この声明に重要な変更がある場合、またはマイクロソフトによる個人情報の用途に変更がある場合は、このような変更を実施する前に変更の通知をわかりやすく掲示するか、またはお客様に直接通知いたします。この声明を定期的に参照していただき、個人情報保護に対するマイクロソフトの取り組みについてご確認いただくことをお勧めします。

[ページのトップへ](#)

詳細情報

マイクロソフトでは、このプライバシーに関する声明についてのお客様のご意見、ご感想をお待ちしております。この声明について不明な点がある場合、またはマイクロソフトがこの声明に従っていないと思われる場合は、[Web フォーム](#)

Microsoft Privacy
Microsoft Corporation
One Microsoft Way
Redmond, Washington 98052

[ページのトップへ](#)

Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows Vista のプライバシーに関する声明

ハイライト 声明

このページ内

Windows Vista のプライバシーに関する声明

ライセンス認証

このページは、[Windows Vista のプライバシーに関する声明](#)を補足するものです。特定の機能、サイトまたはサービスに関連するデータの収集およびその用途について理解するために、Windows Vista の

監査

プライバシーに関する声明と補足情報 (掲示されている場合) をお読みください。[Windows Vista のプライバシーに関する声明](#)

BitLocker™ ドライブ
暗号化

Crypto API
(Application

最終更新日 :2007 年 12 月

Programming
Interface) 診断

ライセンス認証

カスタム エクスペリ
エンス向上プログラム
(CEIP)

この機能について

デバイス マネージャ
ダイヤルアップ ネット
ワーク

ライセンス認証は、ソフトウェアの違法コピーを減らして、マイクロソフトのお客様に期待どおりのソフトウェア品質を提供することを目的としています。お客様のソフトウェアがライセンス認証されると、固有のプロダクト キーがソフトウェアをインストールしたコンピュータ (ハードウェア) に関連付けられます。この関連付けは、プロダクトキーを使用して同じソフトウェアを複数のコンピュータでライセンス認証する違法コピーを防止します。コンピュータのコンポーネントやソフトウェアに何らかの変更を加えた場合は、ソフトウェアの再ライ

ドライバ保護

動的更新	センス認証が必要になる場合があります。
コンピュータの簡単な操作センター	収集、処理、または送信される情報
イベントビューアー	このソフトウェアのライセンス認証中に、プロダクト キー情報がハードウェア ハッシュ (コンピュータのハードウェア構成から生成される一意でない数字) と共にマイクロソフトに送信されます。このハードウェア ハッシュは、個人情報やソフトウェアに関する情報を表すものではありません。ハードウェア ハッシュを使用してコンピュータの製造元やモデル名を判断したり、コンピュータに関する追加情報を算出することはできません。標準的なコンピュータ情報のほかに、その他の言語設定も収集されます。
FAX	
ファイルの関連付け	
Web サービス	
ゲーム フォルダ	
手書き認識 (Tablet PC でのみ使用可能)	情報の用途
IME (Input Method Editor)	マイクロソフトは、ソフトウェアがライセンス供与されたものであるかどうかを確認する目的に情報を使用します。次に、これらの情報は統計的な分析を行うために集約されます。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。
インストール向上プログラム	
インターネット印刷	選択および管理
IPv6 (Internet Protocol version 6) ネットワーク アドレス変換トランスバーサル	ライセンス認証は必須の手続きです。あらかじめ決められた時間内にライセンス認証を完了する必要があります。ソフトウェアのライセンス認証を行わない場合は、認証の猶予期間が経過するとソフトウェアを使用できなくなります。ソフトウェアが正しくライセンスされていない場合、ライセンス認証を完了することはできません。
ネットワーク位置認識サービス	ページのトップへ
オンラインでのプリントの注文ウィザード	監査
保護者による制限	この機能について
ピア名解決サービス	監査を使用して、管理者はオペレーティング システムの活動をセキュリティ ログに記録するように構成することができます。セキュリティ ログには、イベント ビューアーやその他のプログラムを使用してアクセスできます。このログは、コンピュータやコンピュータ上のリソースへの認証されていないアクセスを検出したり、問題をトラブルシューティングする際に役立ちます。
プラグ アンド プレイ プラグ アンド プレイ 拡張機能	
プログラム互換性アシスタント	収集、処理、または送信される情報

<p>プログラムのプロパティ - [互換性] タブ</p> <p>プログラム互換性ウィザード</p>	<p>収集される情報の種類、収集された情報の保持期間、および情報が第三者に送られるかどうかは管理者によって決定されます。この情報には、ユーザー名やファイル名など、ユーザーの個人情報が含まれる場合があります。詳細については、管理者にお問い合わせください。</p>
<p>プロパティ</p>	<p>情報の用途</p>
<p>登録</p>	<p>管理者は、監査情報の用途も決定します。通常、セキュリティ ログは、コンピュータの活動を追跡したり、コンピュータやコンピュータ</p>
<p>Rights Management Services (RMS) クライアント</p>	<p>のリソースへの認証されていないアクセスを識別するために監査担当者および管理者によって使用されます。</p>
<p>音声認識機能</p>	<p>管理者は、この機能を有効にするかどうか、およびユーザーにどのように通知するかを決定します。管理者によって特に許可されている場合を除き、セキュリティ ログを他のユーザーが見ることはできません。</p>
<p>トラステッドプラットフォーム モジュール (TPM) サービス</p>	<p>管理者は、この機能を有効にするかどうか、およびユーザーにどのように通知するかを決定します。管理者によって特に許可されている場合を除き、セキュリティ ログを他のユーザーが見ることはできません。</p>
<p>ルート証明書の更新</p>	<p>ページのトップへ</p>
<p>UPnP テクノロジ</p> <p>Windows Anytime Upgrade</p>	<p>BitLocker™ ドライブ暗号化</p> <p>この機能について</p>
<p>Windows カレンダー</p> <p>Windows グループ作業ツール テクノロジ</p> <p>Windows コントロール パネル</p>	<p>BitLocker ドライブ暗号化 (BitLocker) は、Windows Vista™ Enterprise Edition と Windows Vista™ Ultimate Edition を実行しているコンピュータで利用できる機能です。コンピュータが紛失または盗難に遭った場合、BitLocker はオフライン ソフトウェア攻撃を防ぐことで、データを保護します。BitLocker を有効にすると、Windows がインストールされているハード ドライブに保存されている全情報を含めて、そのハード ドライブが暗号化されます。</p>
<p>Windows ヘルプ</p> <p>Windows メール</p>	<p>収集、処理、または送信される情報</p>
<p>Windows ムービー メーカー</p> <p>Windows 印刷スプーラ</p>	<p>BitLocker を有効にすると、保護されたハード ドライブからの読み取りや書き込み時に、メモリの暗号化キーによりデータが暗号化および解読されます。BitLocker を設定する際は、回復パスワードの印刷、または USB フラッシュ ドライブあるいはネットワーク上の場所への保存を選択することができます。企業環境では、管理者は、回復情報を自動的に Active Directory ドメイン サービスに保存することができます。BitLocker は、1 つ以上のグローバル一意識別子 (GUID) を保護される各ハード ドライブに関連付けて各ドライブを管理します。これら</p>
<p>Windows 問題レポート</p>	

Windows ターミナル の GUID は、BitLocker を無効にしたときに削除されます。

サービス クライアント コンピュータに TPM (トラステッド プラットフォーム モジュール) Version 1.2 セキュリティ ハードウェアが搭載されている場

合、BitLocker では、ハードウェアで拡張されたデータ保護を提供するために TPM が使用されます。詳細については、「トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) サービス」(下記) を参照してください。TPM を装着したコンピュータでは、個人識別番号 (PIN) をセットアップして、暗号化されたデータの保護階層をさらに追加することもできます。BitLocker は、この TPM ベースの PIN をハッシュされ暗号化された形式でハード ドライブに保存します。

情報の用途

暗号化キーと GUID は、コンピュータ メモリに保存され、BitLocker の機能をサポートします。BitLocker の回復情報を使用すると、ハードウェア エラーやその他の問題が発生したときに、保護されたデータにアクセスできます。この回復情報により、BitLocker では認証されたユーザーと認証されていないユーザーを区別できます。BitLocker で収集された情報は、マイクロソフトに送信されません。

選択および管理

BitLocker は既定で無効になっています。管理者は、[コントロール パネル] の [BitLocker ドライブ暗号化] に進み、BitLocker をいつでも有効または無効にすることができます。

[ページのトップへ](#)

Crypto API (Application Programming Interface) 診断

この機能について

Crypt API Diagnostics 機能は、アプリケーションの証明書の使用に関連付けられたイベントをログに記録します。

収集、処理、または送信される情報

使用する証明書、またはコンピュータにインストールされているオペレーティング システムおよびアプリケーションが使用する証明書についての情報が収集されます。この機能を有効にすると、イベント ログに情報が出力され、イベント ビューアを使用してその情報を表示することができます。

情報の用途

管理者は、証明書の信頼性の問題を識別およびトラブルシューティングするためにこの情報を使用できます。また、管理者はこの情報をファイルにエクスポートすることもできます。このファイルは解析のためにマイクロソフト プレミア サポートなどの技術専門チームに送られる場合もあります。マイクロソフトに自動的に送信されるデータはありません。

選択および管理

Crypto API Diagnostics 機能は既定で無効になっています。この機能を有効または無効にすることができるのは管理者だけです。コンピュータのパフォーマンスを低下させる可能性があるため、証明書で問題が発生している場合を除き、この機能は有効にしない方が良い場合があります。管理者は、証明書の信頼性処理のさまざまな部分をログに出力するように Crypto API 診断を構成することができます。また、収集する情報の量を決定することもできます。

[ページのトップへ](#)

カスタマ エクスペリエンス向上プログラム (CEIP)

この機能について

このプログラムに参加すると、コンピュータの基本情報と Windows Vista の利用状況に関する情報が CEIP レポートに収集されます。マイクロソフト製品が Windows Vista で実行するソフトウェアと対話する方法を向上させるために、そのソフトウェアの限定された情報が収集される場合もあります。このようなレポートはマイクロソフトに送信され、お客様が最もよく使用する機能を向上させ、一般的な問題に対するソリューションを作成するために役立てられます。

収集、処理、または送信される情報

CEIP レポートには通常、次の情報が含まれています。

- 構成。コンピュータのプロセッサ数、使用しているネットワークの接続数、ディスプレイ デバイスの画面解像度、実行している Windows のバージョンなど。レポートには、コンピュータとワイヤレス デバイスや Bluetooth 対応デバイスとの間の信号強度、および高速 USB 接続などの機能がオンになっているかどうかなどの構成情報も含まれる場合があります。

- パフォーマンスと信頼性。ボタンをクリックした時のプログラムの応答速度、プログラムやデバイスで発生した問題の数、ネットワーク接続で情報が送受信される速度など。
- プログラムの利用状況。最も頻繁に使用する機能、Windows ヘルプとサポートを使用する頻度、通常デスクトップに作成するフォルダ数など。

CEIP レポートには、CEIP への参加を決定した時刻から最大で 7 日前からのコンピュータでのイベントに関する情報（イベント ログ データ）も含まれます。ほとんどのユーザーは、Windows をセットアップしてから数日以内に CEIP への参加を決定するため、マイクロソフトは Windows Vista のセットアップ体験の分析と向上のためにこの情報を使用します。

この情報は、インターネットへの接続時にマイクロソフトに送信されます。CEIP レポートには、名前、住所、電話番号などの個人情報は含まれません。ただし、一部のレポートには、コンピュータに接続されたデバイスのシリアル番号など、個人識別子が意図せずに含まれる可能性があります。マイクロソフトは、CEIP レポートに含まれる情報をフィルタリングして、含まれている可能性がある個人識別子を削除することに努めます。個人識別子を受信する限りにおいて、マイクロソフトが個人を特定したり、連絡を取ったりするためにこれらの識別子を使用することはありません。

また CEIP ではグローバル一意識別子 (GUID) が生成され、コンピュータを一意に識別するためにコンピュータに保存され、CEIP レポートで送信されます。GUID はランダムに生成された番号で、個人情報は含まれません。

情報の用途

マイクロソフトは CEIP 情報を利用してソフトウェアの向上を図ります。マイクロソフトは、受信するフィードバックの範囲やその重要度を区別するために GUID を使用します。たとえば、マイクロソフトは GUID を使用して、ある問題が 100 回起きているお客様と、同じ問題が 1 回だけ起きているお客様を区別できます。マイクロソフトは、CEIP レポートで収集した情報を使用して、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。インターネットに接続するときのインターネット プロトコル (IP) アドレスは CEIP レポートごとにマイクロソフトに送信されますが、マイクロソフトは

この情報を使用して個人を識別したり、連絡を取ったりすることはありません。

選択および管理

この機能は既定で無効になっています。参加を選択した場合、コンピュータ上のすべてのユーザーについて上述した情報が CEIP で収集されます。管理者は、コントロールパネルの [問題のレポートと解決策] にアクセスして、すべてのユーザーがカスタマ エクスペリエンス向上プログラムに参加するのを停止することができます。[コントロールパネル] をクリックし、[システムとメンテナンス] をクリックし、[問題のレポートと解決策] をクリックして、左側のウィンドウの [関連項目] の下の [カスタマ エクスペリエンス向上の設定] をクリックします。

詳細については、オンラインでマイクロソフト Web サイトの [マイクロソフト カスタマ エクスペリエンス向上プログラムのよくある質問](#) を参照してください。

[ページのトップへ](#)

デバイス マネージャ

この機能について

デバイス マネージャでは、ハードウェア デバイスの最新のドライバをインストールできます。ドライバ ソフトウェアの更新ウィザードを利用すると、コンピュータにインストールされているハードウェアのデバイス ドライバの更新、ハードウェア設定の変更、およびデバイスやドライバの問題のトラブルシューティングを行うことができます。

収集、処理、または送信される情報

ハードウェアに適用する更新プログラムを決定するために、ユーザーのコンピュータの構成情報が収集され、マイクロソフトに送信されます。デバイス マネージャとドライバ ソフトウェアの更新ウィザードは Windows Update と連携してこの情報を収集します。Windows Update で収集される情報とその用途の詳細については、オンラインでマイクロソフト Web サイトの [Windows Update のプライバシーに関する声明](#) を参照してください。

情報の用途

この情報は、コンピュータ ハードウェアおよび取り付けられたデバイスに適用する更新プログラムを決定するために収集されます。マイクロソフトは、コンピュータの構成に関して収集した情報を使用して、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

選択および管理

デバイス マネージャは既定で有効になっています。これを無効にすることはできません。ただし、ドライバソフトウェアの更新ウィザードを開き、ドライバソフトウェアの更新を選択した場合、デバイス マネージャがマイクロソフトに送信するのは構成情報のみであり、それにより更新されたドライバがダウンロードされます。デバイス マネージャを開く方法やドライバソフトウェアの更新ウィザードを使用する方法の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

ダイヤルアップ ネットワーク

この機能について

ダイヤルアップ ネットワークを使用すると、ケーブル モデムやデジタル加入者回線 (DSL) など、ダイヤルアップ モデムやブロードバンド技術を使用してインターネットにアクセスできます。また、ダイヤルアップ ネットワークでは、仮想プライベート ネットワーク (VPN) 接続やリモート アクセス サービス (RAS) を使用して、プライベート ネットワークにアクセスすることもできます。RAS は、業界の標準的なプロトコルを使用してクライアント コンピュータ (一般にユーザーのコンピュータ) をホスト コンピュータ (リモート アクセス サーバーとも呼ばれます) に接続するコンポーネントです。VPN テクノロジーを利用すると、インターネットを通じて会社のネットワークなどのプライベート ネットワークに接続することができます。

ダイヤルアップ ネットワークには、RAS クライアント、接続マネージャ、RAS 電話などのダイヤラ コンポーネントと、Rasdial などのコマンドライン ダイヤラが含まれます。

収集、処理、または送信される情報

ダイヤラ コンポーネントは、ユーザー名、パスワード、ドメイン名、

電話番号などの情報をコンピュータから収集します。この情報は接続先のシステムに送信されます。この情報は、マイクロソフトには送信されません。ユーザー名やパスワードなど、セキュリティに関連する情報は暗号化された形式でコンピュータに保存されます。

接続マネージャ管理キット (CMAK) は、管理者がユーザー インターフェイスを構築して、ユーザーから情報を収集できるようにするサーバー コンポーネントです。管理者は収集する情報の種類を決定します。詳細については、管理者に問い合わせてください。

情報の用途

ダイヤラ情報は、インターネットへの接続を確立するために使用されます。CMAK では、接続プロファイルを作成するために情報が使用されます。接続プロファイルを使用すると、管理者はネットワーク内で接続を容易に展開および管理できます。

選択および管理

コマンド ライン ダイヤラ以外では、パスワードを保存できます。このオプションは、既定で無効になっています。このため、このオプションを有効にして、パスワードの保存を選択するまで、インターネットやネットワークへの接続のためのパスワードの入力を求められます。Rasdial のようなコマンド ライン ダイヤラには、パスワードを保存するオプションはありません。

[ページのトップへ](#)

ドライバ保護

この機能について

ドライバ保護は、安定性に関する問題を引き起こすことが判明しているドライバをオペレーティング システムが起動するのを防止します。これらのドライバの一覧は、コンピュータに保存されたドライバ保護一覧データベースに格納されています。ドライバ保護は、オペレーティング システムが動作している間にこのデータベースを確認します。この確認の結果に基づいて、ドライバを起動するかどうか判断されます。詳細については、オンラインでマイクロソフト Web サイトの記事 [ドライバ保護一覧](#) を参照してください。

収集、処理、または送信される情報

Windows Update

を有効にしている場合は、必要なドライバの最新バージョンがダウンロードされます。Windows Update で収集される情報および用途の詳細については、[Windows Update のプライバシーに関する声明](#)を参照してください。また、管理者は必要なドライバの最新バージョンをネットワーク上のコンピュータに配布することもできます。

情報の用途

Windows は、ドライバ保護一覧に格納されているドライバが起動する場合にユーザーに通知します。通知をクリックすると、Windows は問題をマイクロソフトに報告するかどうかを確認します。これにより、解決策や詳細情報を確認できます。通知をクリックしない場合、Windows は自動的にレポートを作成し、問題のレポートの設定に応じて、後で送信するかどうかを確認します。問題レポートの設定を表示または変更したり、レポートを任意の時刻に手動で送信したりするには、[コントロール パネル] の [問題のレポートと解決策] にあるオプションを使用します。Windows エラー報告で収集される情報とその用途の詳細については、オンラインでマイクロソフト オンラインクラッシュ ダンプ解析 (OCA) Web サイトの [Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する声明](#) を参照してください。

Windows のセットアップ時にドライバ保護一覧からドライバが見つかった場合は、オペレーティング システムのインストールが完了する前に通知されます。ユーザーは、セットアップを中止し、オペレーティング システムをインストールする前に別のドライバ ソリューションを検索することができます。または、セットアップ プロセスを続行して、代替のドライバを後でインストールすることもできます。この場合、インストールを完了させるためにドライバが無効にされることがあります。インストールを完了してログオンすると、上述のようにオペレーティング システムで通知されます。

選択および管理

ドライバ保護は、セットアップ中に Windows Update および動的更新と共に動作します。ドライバ保護でコンピュータのドライバ保護一覧データベースが更新されないようにするには、Windows Update と動的更新を使用しないようにします。

[ページのトップへ](#)

動的更新

この機能について

動的更新を使用すると、Windows Vista でオペレーティング システムをインストール中に Microsoft Update Web サイトを 1 回確認して、コンピュータの最新の更新プログラムを取得できます。更新プログラムが見つかった場合、動的更新により更新プログラムが自動的にダウンロードされ、インストールされます。これにより、コンピュータに最初にログオンしたり、使用したりするときにコンピュータは最新の状態に維持されています。

収集、処理、または送信される情報

動的更新でコンピュータにダウンロードできる更新プログラムの種類は、次のとおりです。

- インストールの更新プログラム：インストールを正常に実行できるようにするインストール ファイルの重要な更新プログラムです。
- インボックス ドライバ更新プログラム：インストール中の Windows のバージョン用の重要な更新プログラムです。

互換性のあるドライバをインストールするために、動的更新は Windows Update と連携してコンピュータのハードウェアについての情報をマイクロソフトに送信します。

情報の用途

動的更新ソフトウェアは、互換性のあるドライバを検索するためにコンピュータのハードウェアについての情報を報告します。動的更新により収集された情報の用途の詳細については、[Windows Update のプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

選択および管理

Windows Vista のセットアップ中に、動的更新を使用するかどうかを選択できます。

[ページのトップへ](#)

コンピュータの簡単操作センター

この機能について

コンピュータの簡単操作センターを使用すると、ユーザー補助のオプションと設定を有効にしてコンピュータの操作性を向上させることができます。

収集、処理、または送信される情報

収集される情報は障害に関する一覧で、ユーザーにとってより使いやすいコンピュータの設定を推奨するために使用されます。ユーザーは、一連の選択肢から適切なものを選択することでこの情報を提供できます。

これらの選択肢には、次のものがあります。

- テレビの文字が読みにくいことがある。
- 色覚に障害がある。
- 視覚に障害がある。
- キーボードの使用が困難な障害がある。
- 聴覚に障害がある。
- 発声に障害がある。

情報の用途

この情報は、ユーザーの申告内容に対応できる推奨構成を提供するために使用されます。この情報は、人間が判読できない特殊な形式でコンピュータにローカルに保存されます。この情報はマイクロソフトに送信されません。また、コンピュータのユーザーと管理者のみが使用可能で、他のユーザーは使用できません。

選択および管理

ユーザーは複数の項目を選択することができます。また、選択内容をいつでも変更することができます。さらには、推奨される構成の中から、お使いのコンピュータに適用する構成を選択することもできます。

[ページのトップへ](#)

イベント ビューア

この機能について

コンピュータのユーザー（主に管理者）は、イベント ビューアを使用して、イベント ログを表示して管理します。イベント ログには、ハードウェアおよびソフトウェアの問題に関する情報や、コンピュータのセキュリティ イベントに関する情報が含まれています。たとえば、アプリケーション ログには、すべてのユーザーおよびコンピュータで使用されるプログラムで生成されたイベント情報が含まれます。既定では、すべてのユーザーはアプリケーション ログ エントリを表示できます。ただし、管理者はイベント ビューア ログへのアクセスを制限できます。

収集、処理、または送信される情報

イベント ビューアを開いて、コンピュータのイベント ログにアクセスできます。イベント ビューアを開く方法については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。イベントの詳細を表示するには、イベントをプレビューするか、イベントのプロパティを表示できます。[イベントのプロパティ] ダイアログ ボックスおよびイベントのプレビュー ウィンドウには、詳細な情報へのリンク（イベント ログのオンライン ヘルプ）が表示されます。イベント情報を自動的に送信することにあらかじめ同意している場合を除き、リンクをクリックすると、ダイアログ ボックスに一覧表示されている情報を、インターネットを使用して送信することに同意するかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。同意すると、イベントとして記録された問題の解決策など、イベントに関する詳細情報を利用できるかどうかを確認するために、情報は Web サイトに送信されます。マイクロソフトのイベントの場合、イベントの詳細は Microsoft TechNet Web サイトの Windows Server TechCenter に転送されます。サードパーティ アプリケーションに関連するイベントの場合、情報はサードパーティ発行元または製造元がプロバイダ マニフェストで指定しているサイトに転送されます。管理者は、グループ ポリシーを使用して、イベント情報の送信先のサイトを選択または変更できます。

情報の用途

イベント ログのオンライン ヘルプをクリックした際に収集されマイクロソフトに送信されるイベント情報は、該当するイベントに関連する追加の情報を特定し、ユーザーに提供するために使用されます。マイクロソフトは、問い合わせたり、個人を特定したりするためにこの情報を使用することはありません。イベントに関する情報をサードパーティ発行元または製造元に送信した場合、情報の使用はサードパー

ティのプライバシーに関する規則によって管理されます。

選択および管理

イベント ログのオンライン ヘルプをクリックした際、表示されている情報をインターネット経由で送信するかどうかを確認するメッセージが表示されます。これに同意しない限り、イベント ログ情報がインターネット経由で送信されることはありません。管理者は、グループポリシーを使用して、イベント情報の送信先のサイトを選択または変更できます。

[ページのトップへ](#)

FAX

この機能について

FAX 機能を使用すると、FAX 送付状を作成および保存したり、コンピュータと、外部または組み込みの FAX モデムまたは FAX サーバーを使用して FAX を送受信したりすることができます。

収集、処理、または送信される情報

収集される情報には、FAX 送付状に入力された個人情報や、送信端末識別 (TSID) や Call Subscriber ID (CSID) などの業界の標準的な FAX プロトコルに含まれる識別子が含まれています。既定では、Windows は ID ごとに値 (名前) として "Fax" を使用しますが、[FAX の設定] にあるオプションを使用して TSID や CSID をカスタマイズすることができます。パブリック ビューの設定によっては、システムで受信したすべての FAX をすべてのユーザーが確認することができます。この設定は既定で有効になっていますが、管理者によって変更されている場合もあります。FAX を送信する場合、送信した FAX を確認できるのは送信者だけです。ただし、管理者特権を持つユーザーは、コンピュータにある FAX 送信されたすべてのドキュメントを手動で確認できます。

情報の用途

送信者側のダイアログ ボックスに入力した情報は送付状に記載されません。TSID や CSID などの ID には任意のテキストが含まれている場合があり、一般的には受信側の FAX 機やコンピュータが送信者を識別するために使用されます。情報はマイクロソフトに送信されません。

選択および管理

既定では、FAX アクセスはコンピュータのユーザー アカウント特権によって決まります。FAX 管理者がアクセス設定を変更しない限り、すべてのユーザーは FAX を送受信できます。すべてのユーザーは、自分が送信したドキュメントおよびコンピュータで受信した FAX を表示できます。管理者は、すべての FAX 送信済みドキュメントの確認と送受信を実行できます。また、FAX を表示または管理できるアクセス許可を付与するユーザーを決定するなど、FAX 設定を構成できます。

[ページのトップへ](#)

ファイルの関連付け Web サービス

この機能について

ファイルの関連付け Web サービスでは、ファイルの種類を特定のアプリケーションに関連付けることができます。プログラムが関連付けられていないファイルの種類を開こうとすると、ファイルの関連付け Web サービスを使用してファイルを開くプログラムを見つけるかどうかの確認が表示されます。このサービスを使用する場合は、ファイルの種類の前接子がマイクロソフトに送信されます。ファイル名前接子に一般的に関連付けられているアプリケーションが表示されます。

収集、処理、または送信される情報

ファイルの関連付けサービスを使用する場合は、ファイル名前接子がマイクロソフトに送信されます。コンピュータの表示言語もマイクロソフトに送信されます。

情報の用途

ファイル名前接子を送信すると、このサービスはマイクロソフトが認識しているプログラムの中でその前接子のファイルを開くことができるプログラムの一覧を表示言語を使用して返します。プログラムをダウンロードおよびインストールしない限り、そのファイルの種類に関連付けは変わりません。

選択および管理

ファイルの関連付け Web サービスを使用するかどうかを選択します。このサービスを使用しない限り、ファイルの関連付け情報がマイクロソフトに送信されることはありません。管理者は、このサービス

をユーザーが使用しないようにする複数のオプションを利用できます。管理者オプションの詳細については、Microsoft TechNet Web サイトの [Windows Vista でのインターネットによる通信の管理に関する記事](#) (英語の可能性あり) を参照してください。

[ページのトップへ](#)

ゲーム フォルダ

この機能について

ゲーム フォルダには、コンピュータにインストールされているすべてのゲームが表示され、すべてのゲームを 1 つの場所から表示および起動できます。ゲーム フォルダでは、ボックス アート、発行元情報、説明、レビューなど、これらのゲームに関する追加情報 (メタデータ) をダウンロードして利用することもできます。

収集、処理、または送信される情報

ゲーム フォルダには、最後にプレイした日付をゲームごとに記録することもできます。この情報を利用することで、表示されるゲームの並び替えやフィルタリングを行うことができます。ゲームのプレイ日時情報はコンピュータに保存され、マイクロソフトに送信されることはありません。ゲーム フォルダには、お客様の選択に応じて、インストールされているゲームに関するメタデータがマイクロソフトの WMIS (Windows Metadata and Internet Services) から取得されます。このために、ゲーム ファイルの名前やゲームのショートカットなどの情報がマイクロソフトに送信されます。

情報の用途

マイクロソフトに送信された情報は、インストールしたゲームのメタデータを取得するために使用されます。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。ただし、収集された情報は統計情報を生成するために使用される場合があります。

選択および管理

ゲーム フォルダのメタデータの収集機能や追跡機能を有効または無効にすることができます。有効になっている場合は、ゲーム フォルダを開くたびにメタデータが取得され、ゲーム フォルダには最後にゲームをプレイした日時が記録されます。最初にゲーム フォルダを開いたと

きに、ゲーム メタデータの取得と表示、およびゲームをプレイした時間の追跡を行うかどうかを選択できます。ゲーム フォルダにあるオプションを使用することで、これらの機能を無効にすることができます。企業環境では、管理者はグループ ポリシーを使用することでこれらの機能を無効にできます。

[ページのトップへ](#)

手書き認識 (Tablet PC でのみ使用可能)

個人設定 - 自動学習機能

この機能について

自動学習機能は、Tablet PC で利用できる手書き認識機能です。この機能は、ユーザーが使用する語句や筆跡に関するデータを収集します。自動学習機能を有効にすると、手書き認識ソフトウェアはユーザーの筆跡や語彙を認識し、解釈能力を向上させます。

収集、処理、または送信される情報

自動学習機能が収集した情報は Tablet PC のユーザーごとにユーザー プロファイルに保存されます。この情報は、マイクロソフトには送信されません。データは専用の形式で保存されるため、メモ帳やワードパッドなど、テキストを表示するためのプログラムを使用して読み取ることはできません。また、ユーザーとコンピュータの管理者のみが使用でき、他のユーザーは使用できません。

収集される情報の一例：

- Microsoft Office Outlook 2003 や Windows メールなどの電子メール プログラムを使用して作成したメッセージや予定表のエントリのテキスト。これには送信済みのメッセージも含まれません。
- Internet Explorer のアドレス バーに入力したテキスト。
- タブレット PC の入力パネルに記入したインク。
- 入力パネルに記入したインクから認識されたテキスト。
- 認識済みのテキストを修正するために選択した文字。

注意：筆跡と語彙の両方の自動学習機能を、手書き認識機能をサポートするすべての言語で利用できるとは限りません。各言語で使用され

るデータの種類の詳細については、Windows ヘルプとサポートの「Tablet PC の手書き認識個人用設定」を参照してください。

情報の用途

収集された情報は、ユーザー独自の筆跡や語彙に合わせてカスタマイズされた認識ソフトウェアのバージョンを作成し、手書き認識能力を向上させるために使用されます。テキストのサンプルは、拡張辞書を作成するために使用されます。インクのサンプルは、Tablet PC のユーザーごとに文字認識を向上するために使用されます。

選択および管理

ユーザーは、自動学習機能のオンとオフの切り替えを [コントロールパネル] の [タブレット PC 設定] でいつでも行うことができます。自動学習機能をオフにすると、収集および保存されたデータはすべて削除されます。

手書き認識のエラー報告

この機能について

タブレット PC の入力パネルを使用中に手書き認識エラーが発生した場合、そのエラーに関する報告をマイクロソフトに送信することができます。

収集、処理、または送信される情報

最近収集された手書きサンプルの簡潔な一覧がメモリに格納されます。明示的に許可していない限り、これらの手書きのサンプルがハードドライブに書き込まれたり、マイクロソフトに送信されることはありません。送信されたサンプルに個人情報が含まれている場合もありますが、マイクロソフトがこれらの情報を意図的に収集することはありません。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

情報の用途

ユーザーは、マイクロソフトに報告する認識エラーを選択することができます。これらの報告は、今後のバージョンの手書き認識ソフトウェアを向上させるために使用されます。

選択および管理

報告の作成は、手書き認識エラー報告ツールを使用して行うことができます。報告は自動的に送信されません。ユーザーは報告に含める手

書きサンプルを選択し、マイクロソフトに送信する前に作成した報告を確認できます。企業環境では、管理者はグループ ポリシーを使用することで、手書き認識エラー報告を無効にすることができます。

[ページのトップへ](#)

IME (Input Method Editor)

IME 学習

この機能について

Microsoft Input Method Editor (IME) は東アジア言語で使用され、キーボードで入力した文字を表意文字に変換します。簡体字中国語、繁体字中国語、および日本語版の IME の学習機能は、単語または熟語を記録することで、適切な漢字の候補を提示することができるようになります。

収集、処理、または送信される情報

IME の学習機能は、ユーザーが操作するたびに単語または熟語とその関連スコアを記録します。この情報 (数字および記号の並びを除く) は、コンピュータのユーザーごとにユーザー辞書に保存されません。IME で情報がマイクロソフトに送信されることはありません。

情報の用途

学習データはシステムの IME で使用されます。また、Microsoft Office の文章校正ツールによって参照される場合もあります。情報はマイクロソフトに送信されません。

選択および管理

学習機能は、IME 機能で無効にすることができます。また、学習機能を有効にして、ユーザー辞書に書き込まないように構成することもできます。

IME 単語登録 (日本語 IME のみで使用可能)

この機能について

単語登録を使用して、サポートされていない単語 (キーボード入力ですら正しく表意文字に変換されない単語) を報告することができます。

収集、処理、または送信される情報

単語登録の報告には、報告する語句について [単語の追加] ダイアログ

ボックスに入力する情報や、IME のソフトウェアのバージョン番号なども含まれます。個人情報が意図せずに収集される可能性があります。マイクロソフトは個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。報告を送信する前に、ユーザーは報告に含まれるデータを再確認することができます。

情報の用途

単語登録の報告は、SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用してマイクロソフトに送信されます。マイクロソフトは IME を向上するために情報を使用します。

選択および管理

単語登録の報告が生成される際は、報告をマイクロソフトに送信するかどうかをユーザーに確認するメッセージが毎回表示されます。ユーザーは、送信するかどうかを選択する前に、報告に含まれている情報を確認することができます。企業環境では、管理者はグループ ポリシーを使用することで単語登録の報告を構成できます。グループ ポリシーの構成オプションには、報告を完全にオフにしたり、報告を別のサーバーにリダイレクトする機能が含まれています。グループ ポリシーを使用して報告を構成する方法の詳細については、Microsoft TechNet Web サイトの [Windows Vista でのインターネットによる通信の管理に関する記事](#) (英語の可能性あり) を参照してください。

[ページのトップへ](#)

インストール向上プログラム

この機能について

インストール向上プログラムに参加すると、1 つのレポートがマイクロソフトに送信されます。この報告には、コンピュータの基本情報と Windows Vista のインストール状況に関する情報が収集されます。マイクロソフトは、インストール体験を向上し、一般的なインストールの問題の解決策を作成するためにこの情報を使用します。

収集、処理、または送信される情報

この報告には、インストールの日付、インストール フェーズごとに完了までにかかった時間、インストールが製品のアップグレードであるか新規インストールであるかどうか、バージョンの詳細、オペレーティング システム言語、メディアの種類、コンピュータの構成、および

成功またはエラーの状態およびエラー コードなど、インストールおよびセットアップ体験に関する情報を含んでいます。

この報告は、インターネットへの接続時にマイクロソフトに送信されます。この報告には、名前、住所、電話番号などの連絡先情報は含まれません。グローバル一意識別子 (GUID) が生成され、報告と共に送信されます。GUID は、コンピュータを一意に識別するためにランダムに生成された番号で、個人情報は含まれません。

情報の用途

マイクロソフトは、ソフトウェアのインストール体験を向上するために報告を使用します。マイクロソフトは、GUID を使用してこのデータをカスタマ エクスペリエンス向上プログラム (CEIP) で収集されたデータと関連付けます。Windows Vista を使用しているときに、このプログラムに参加することを選択できます。この GUID を使用して、マイクロソフトは受信するフィードバックの範囲やその重要度を区別できます。たとえば、マイクロソフトは GUID を使用して、ある問題が 100 回起こっているお客様と、同じ問題が 1 回だけ起こっているお客様を区別できます。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

詳細については、オンラインでマイクロソフト Web サイトの [マイクロソフト カスタマ エクスペリエンス向上プログラムのよくある質問](#) を参照してください。

選択および管理

Windows Vista のセットアップ中に、このプログラムに参加するかどうかを選択できます。

[ページのトップへ](#)

インターネット印刷

この機能について

Windows Vista を実行しているコンピュータでインターネット印刷機能を利用すると、HTTP (Hypertext Transfer Protocol) を使用して印刷ジョブを送信することで、世界中のどこにあるプリンタでも使用することができるようになります。

収集、処理、または送信される情報

この機能を使用して印刷を行う場合は、インターネット プリント サーバーに接続して認証を受けておく必要があります。プリント サーバーに送信する必要がある情報は、プリント サーバーがサポートするセキュリティのレベルに応じて異なります(たとえば、ユーザー名とパスワードの入力を求められる場合があります)。接続が完了すると、利用可能なプリンタの一覧が表示されます。選択したプリンタ用のプリンタ ドライバがコンピュータにインストールされていない場合は、プリント サーバーからドライバをダウンロードすることができます。マイクロソフトがホストするプリント サーバーを使用することを選択した場合、マイクロソフトは入力された情報を使用して個人を特定したり、問い合わせたりすることはありません。

情報の用途

収集された情報により、リモート プリンタを使用して印刷することができます。サードパーティのプリント サーバーに情報を送信する場合、情報の使用はサードパーティのプライバシーに関する規則によって管理されます。

選択および管理

インターネット印刷は、コントロール パネルの [Windows の機能] の詳細オプションを使用して有効または無効にすることができます。

[ページのトップへ](#)

IPv6 (Internet Protocol version 6) ネットワーク アドレス変換トラバーサル

この機能について

IPv6 (Internet Protocol version 6) ネットワーク アドレス変換 (NAT) トラバーサル サービスを使用すると、既存のホーム インターネット ゲートウェイ サービスを IPv4 から IPv6 に移行できます。IPv6 により、ピア ツー ピア アプリケーションによって頻繁に必要とされるエンド ツー エンドの接続が可能になります。

収集、処理、または送信される情報

コンピュータを起動するたびに、NAT トラバーサル サービスはインターネット経由でクエリを送信し、パブリック IPv6 インターネット サービスを検出しようとします。IPv6 接続を必要とするプログラム (Windows ミーティング スペースなど) を使用したり、常に IPv6 接続

が有効になるようにファイアウォールを構成したりすると、既定では、標準的なドメイン ネーム サービス (DNS) 情報が定期的にマイクロソフトの IPv6 Web サービスに送信されます。その他の情報はマイクロソフトに送信されません。

情報の用途

このクエリでは、標準的な DNS 情報を送信し、コンピュータがインターネットに接続されていて、パブリック IPv6 サービスを検出できるかどうかを判断します。

選択および管理

netsh コマンド ライン ツールを使用すると、サービスでインターネットを通じて送信されるクエリを変更し、マイクロソフト以外のサーバーを使用したり、この機能を無効にしたりすることができます。

[ページのトップへ](#)

ネットワーク位置認識サービス

この機能について

この機能は、コンピュータのドメイン ネーム サービス (DNS) サフィックス、フォレスト名、コンピュータの接続先のネットワークのゲートウェイ アドレスなど、インターネットやイントラネットのネットワーク接続情報を収集します。ネットワーク位置認識サービスの機能は、適切に機能するための情報を必要としている可能性があるコンピュータのアプリケーションでアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を通じて接続情報を利用できるようにします。

収集、処理、または送信される情報

この機能によって送信または保存される個人情報はありません。ネットワーク接続プロファイルはレジストリに格納されます。ネットワーク接続プロファイルは、接続したすべてのネットワークの履歴と最後に接続した日付/時刻を提供するネットワーク一覧サービスを含むことができます。

情報の用途

情報はマイクロソフトに送信されませんが、ネットワーク接続情報を必要とするコンピュータのアプリケーションで利用可能になります。

選択および管理

ネットワーク位置認識サービスとネットワーク一覧サービスは、既定では有効になっています。管理者は、管理ツールのサービス スナップインにあるオプションを使用してこれらのサービスを無効にすることができます。これらのサービスを無効にすると一部の Windows 機能が正しく動作しなくなります。このため、無効にすることは推奨されません。

[ページのトップへ](#)

オンラインでのプリントの注文ウィザード

この機能について

オンラインでのプリントの注文ウィザードでは、コンピュータやネットワーク ドライブに保存されているデジタル写真を、選択したオンライン写真印刷サービスに送信することができます。サービスに応じて、写真を印刷して郵送してもらったり、プリントを近くの店舗で受け取ることができます。

収集、処理、または送信される情報

オンライン写真印刷サービスを利用して注文する場合、選択したデジタル写真がインターネットを通じて選択したサービスに送信されます。サービスでイメージを表示してアップロードできるように、選択したデジタル写真の完全なパスもサービスに送信されます。デジタル写真ファイルには、写真が撮影された日付と時刻など、カメラでファイルに保存されたイメージに関するデータも含まれる場合があります。ファイルには、デジタル写真管理アプリケーションや Windows Explorer を使用してファイルに関連付けられた個人情報（タイトルなど）も含まれる場合があります。詳細については、後の「プロパティ」を参照してください。

情報の用途

カメラでデジタル写真ファイルに保存された情報は、写真の印刷処理中にオンライン写真印刷サービスによって使用される場合があります。たとえば、プリントの前に画像の色や鮮明度を調整する際に使用されます。デジタル写真管理アプリケーションによって保存された情報は、プリント コピーの表面または裏面にタイトルとして印刷するために使用される場合があります。使用するオンライン写真印刷サービ

スのプライバシーに関する声明を必ず確認し、データをどのように使用するかを判断してください。

選択および管理

オンラインでのプリントの注文ウィザードを使用して、送信する写真を選択したり、写真の印刷に使用するサービスを選択することができます。一部の写真管理アプリケーションでは、印刷する写真を送信する前に、保存されている個人情報を削除できる場合があります。また、ファイルのプロパティを編集して、保存されている個人情報を削除できる場合もあります。ファイルのプロパティの表示または変更の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

保護者による制限

この機能について

この機能は、お子様のコンピュータの利用状況を保護者が監視および制限するのに役立ちます。お子様の保護者は、お子様がプレイできるゲーム、表示できる Web サイトや Web コンテンツ、コンピュータを使用できる時間帯、および実行できるアプリケーションに制限を設けることができます。また、お子様によるコンピュータの使用状況、保護者による制限機能で制限されている行為、およびこれらの制限の変更状況についてのログを記録することができます。この機能を適切に利用するためにも、ご両親のみがコンピュータの管理者となり、お子様には管理者特権を与えないようにしてください。

収集、処理、または送信される情報

制限または監視するサイトや操作を決定する保護者による制限の設定はローカルに保存されます。ログはローカルに保存され、ログの内容には、お子様が行った操作に関する情報や、お子様に対する保護者による制限設定の変更状況に関する情報が含まれます。

ブラウズする Web に制限を設けている場合は、アクセスしようとしている URL が管理者の作成するローカルの許可リストまたは禁止リストに登録されているものかどうかチェックされます。URL がいずれのリストにも登録されていない場合は、URL はマイクロソフトの Web コンテンツ フィルタ サービスに送信され、Web サイトのコンテンツの種類が判定されます (可能な場合)。

情報の用途

URL は、ローカルの許可リストや禁止リストにないサイトについて適切なレーティングを決定して、必要に応じてサイトをブロックするために使用されます。また、URL はレーティング サービスの解析と向上のためにも使用されます。プライバシーを保護するために、ユーザーや要求を送信したコンピュータに関する情報と共にこれらの URL が保存されることはありません。サイトがブロックされるかどうかは、マイクロソフトの Web コンテンツ フィルタ サービスから返された情報に基づいてユーザー側で決定され、保護者による制限の設定はユーザー側に保存されます。マイクロソフトは、保護者による制限機能で収集または転送された情報を使用して、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

選択および管理

保護者による制限を使用して、管理者特権を持たないユーザーのみを監視することができます。管理者を監視することはできません。また、管理者には設定やログに対するフル コントロールが与えられています。保護者による制限は既定で無効になっています。この機能を有効にできるのは管理者のみです。他のユーザーは、管理者から適用された設定を確認することしかできません。監視または制限されているお子様は、アカウントに対して保護者による制限が有効になっていることがアイコン付きで通知領域に示されます。

[ページのトップへ](#)

ピア名解決サービス

この機能について

ピア名解決サービスでは、アプリケーションとサービスはリモート アプリケーションやサービスの登録および検索を行うことができます。次に、関連付けられた IP アドレスを取得して、インターネットやネットワーク経由で互いに通信することができます。ピア名は、一意の英数字のセットです (25028246da822ce8ba9a8135552e7a1bcaa50db6 など)。

収集、処理、または送信される情報

PNRP (Peer Name Resolution Protocol) を使用してピア名を公開すると、ピア名解決サービスはピア名のハッシュを公開し、ユーザーの IP

アドレスと関連付けます。実行しているアプリケーションがピア名を公開すると、ピア名解決サービスを実行しているコンピュータは公開されたピア名を検索して、IP アドレスを取得します。次に、このコンピュータはインターネットやネットワークを経由してユーザーのコンピュータに接続して通信を行います。

情報の用途

PNRP 情報は、他のコンピュータがユーザーのコンピュータを確認して直接通信を行うために使用され、サービスやアプリケーションのピア ツー ピア接続を可能にします。この情報はマイクロソフト サーバーに登録されます。これにより、ユーザーのコンピュータはローカルサブネットの外部にある他の PNRP クライアントとインターネット経由で通信を行うことができます。この情報は、他の PNRP 情報により定期的に上書きされます。マイクロソフトは、個人を特定したり、問い合わせたりするためにこの情報を使用することはありません。

選択および管理

既定では、ピア名解決サービスは有効ですが、アプリケーションでこのサービスを使用する必要があるときまで実行されません。ユーザーのコンピュータでピア名が公開または解決されるのを許可したり、禁止したりするために、管理者は [コントロール パネル] の [システムとメンテナンス] にある管理ツールの [サービス] を使用して PNRP (Peer Name Resolution Protocol) を有効または無効にすることができます。ただし、このサービスを無効にすると、Windows ミーティングスペースなどの一部の機能を使用できなくなる可能性があります。管理ツールの詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

プラグ アンド プレイ

この機能について

Windows プラグ アンド プレイは、ハードウェア デバイスをコンピュータにインストールするのを容易にします。プラグ アンド プレイ デバイスを差し込むと、Windows は互換性のあるドライバのインストール、コンピュータの更新によるデバイスの認識、コンピュータでデバイスが動作するために必要なシステム リソースの割り当てを自動的に実行します。プラグ アンド プレイ デバイスをインストールした後

は、デバイスを使用するときにユーザーが情報を入力しなくてもドライバの構成と読み込みが動的に行われます。

収集、処理、または送信される情報

プラグ アンド プレイ デバイスをインストールする際、Windows Update クライアントによってオンラインの Windows Update サービスが呼び出され、デバイス ドライバの検索とダウンロードが行われます。コンピュータと Windows Update との通信はすべて Windows Update クライアントによって処理されます。Windows Update で収集される情報および用途の詳細については、[Windows Update のプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

情報の用途

プラグ アンド プレイ機能は、プラグ アンド プレイ デバイスを検出および管理し、ハードウェア リソース要件の決定、適切なデバイス ドライバの検索、ドライバの読み込みと読み込み解除、電源管理に関連したデバイスの処理の停止と開始などのタスクを実行します。プラグ アンド プレイ デバイスをインストールするときに、オンラインの Windows Update サービスに送信される情報は適切なデバイス ドライバのダウンロードとインストールのために使用されます。

選択および管理

プラグ アンド プレイは既定で有効になっています。信頼性の問題が発生しないようにするために、プラグ アンド プレイを無効にすることはできません。ただし、管理者はドライバの検索先を決定したり、ユーザーやコンピュータが Windows Update に自動的にアクセスしないようにすることができます。

[ページのトップへ](#)

プラグ アンド プレイ拡張機能

この機能について

PnP-X (プラグ アンド プレイ拡張機能) は、コンピュータに直接接続されたデバイスのプラグ アンド プレイと同じ機能を、ネットワークに接続されたデバイスで利用できるようにします。また、ローカル ネットワーク (サブネット) 上のデバイスを検出してそのデバイスに接続したり、PnP-X 対応のデバイスのプレゼンスをサブネットにブロードキャストすることもできます。PnP-X 対応デバイスをインストールし

た後は、デバイスを使用するときにユーザーが情報を入力しなくてもドライバの構成と読み込みが動的に行われます。

収集、処理、または送信される情報

PnP-X 対応のデバイスは、デバイスの IP アドレスや一意な識別子などのデータをサブネット経由でブロードキャストし、自身のプレゼンスをサブネットにアドバタイズします。PnP-X は、ネットワークドライバや重要な個人情報を含むデジタルカメラなど、さまざまなデバイスをサポートすることに注意してください。また、PnP-X 対応デバイスをインストールするときに、Windows Update クライアントによってオンラインの Windows Update サービスが呼び出され、デバイスドライバの検索とダウンロードが行われます。コンピュータと Windows Update との通信はすべて Windows Update クライアントによって処理されます。Windows Update で収集される情報および用途の詳細については、[Windows Update のプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

情報の用途

PnP-X 対応のデバイスをインストールするときに、オンラインの Windows Update サービスに送信される情報は適切なデバイスドライバのダウンロードとインストールのために使用されます。サブネット経由で送信される情報はデバイスを識別するために使用されます。また、デバイスが持つ機能を利用するためにも使用されます。

選択および管理

管理者は、ドライバの検索先を指定したり、ユーザーやコンピュータが Windows Update に自動的にアクセスしないようにすることができます。PnP-X を無効にしたり、ネットワークにアクセスした PnP-X 対応デバイスから送信される情報を制御する機能はありません。PnP-X 対応デバイスをネットワークに接続する前に、ネットワークが安全であることを確認してください。たとえば、ケーブルモデムを使用してインターネットに接続している場合は、ルーターを設置してネットワーク範囲をネットワーク上の他のユーザーのネットワーク範囲と分離することを検討してください。また、ワイヤレスネットワークを使用している場合は、Wired Equivalent Privacy (WEP) や Wi-Fi Protected Access (WPA) などの認証サービスを有効にしてください。ワイヤレスネットワークのセキュリティによる保護の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

プログラム互換性アシスタント

この機能について

ユーザーが実行しようとしているプログラムで非互換性エラーが検出された場合は、プログラム互換性アシスタントが互換性の問題の解決を支援します。この機能が支援できるプログラムは次の 2 種類です。

- 既知の非互換プログラム：プログラムが Windows Vista に付属する既知の非互換プログラムのリストに含まれる場合は、プログラム互換性アシスタントが開始されます。重大な問題の原因となることがわかっているプログラムはブロックされます。それ以外の場合には、プログラム互換性アシスタントは非互換性の問題に関する警告を出し、ユーザーがプログラムの実行を選択できるようにします。いずれの場合も、プログラム互換性アシスタントでは、問題の情報や解決策をオンラインで調べることができます。
- 非互換性を示す障害が発生するプログラム：互換性のないプログラムに典型的な状況で障害が発生するプログラムの場合は、プログラム互換性アシスタントが開始し、推奨される互換性のある設定で再びプログラムを実行するオプションを、ユーザーに提供します。たとえば、Windows XP 互換モードを必要とするプログラムをインストールしようとする時、プログラム互換性アシスタントが開始します。

収集、処理、または送信される情報

プログラム互換性アシスタントは、Microsoft エラー報告サービスと連携して、非互換性エラーをマイクロソフトに報告します。プログラム名、必要な互換設定、プログラムに関するユーザーのアクションなどの情報を含むエラー レポートが生成される場合があります。ユーザーが既知の非互換プログラムのリストにあるプログラムを開始しようとした場合は、解決策をオンラインで調べるオプションをユーザーが選択した場合にのみ、エラー レポートが作成されます。非互換性を示す障害がプログラムで発生した場合は、エラー レポートが直ちに生成されます。解決策を調べることができるよう自動的に問題を報告することについて以前に同意していない場合には、ユーザーはエラー レポートを送信するかどうかの指定を求められます。マイクロソフトは、個

人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

Windows のエラー レポートとユーザーのプライバシーに関する詳細については、[Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

情報の用途

エラー レポートは、プログラムに関して報告された問題に対する回答をユーザーに提供するために使用されます。回答には、可能な場合にはプログラムのベンダの Web サイトに対するリンクが含まれ、可能な解決策についてさらに詳しく知ることができます。プログラムの障害によって作成されるエラー レポートは、このバージョンの Windows で実行したプログラムでアプリケーションの互換性に関する問題が発生した場合に調整する必要がある設定を判別するために使用されます。

選択および管理

プログラム互換性アシスタントを使用して互換性エラーをマイクロソフトに報告するかどうかは、ユーザーが選択できます。管理者は、グループ ポリシーを使用することで、プログラム互換性アシスタントまたは Windows のエラー報告を無効にして、データがマイクロソフトに送信されないようにすることができます。

[ページのトップへ](#)

プログラムのプロパティ - [互換性] タブ

この機能について

アプリケーションに互換性の問題がある場合は、[互換性] タブを使用してプログラムの設定を調節し、このバージョンの Windows でプログラムが正常に実行するよう試してみることができます。

収集、処理、または送信される情報

[互換性] タブを使用して互換設定を適用すると、プログラム名および使用された互換設定を含む Windows エラー レポートが生成されます。解決策を調べることができるよう自動的に問題を報告することについて以前に同意していない場合には、ユーザーはエラー レポートを送信するかどうかの指定を求められます。マイクロソフトは、個人を

特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

Windows のエラー レポートとユーザーのプライバシーに関する詳細については、[Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する声明](#)を参照してください。[互換性] タブの詳細については、Windows ヘルプとサポートのトピック「このバージョンの Windows で古いプログラムを実行する方法」を参照してください。

情報の用途

[互換性] タブによってマイクロソフトに送信される情報は、このバージョンの Windows で実行したプログラムでアプリケーションの互換性に関する問題が発生した場合に調整する必要がある設定を判別するために使用されます。

選択および管理

管理者は、グループ ポリシーを使用することで、[プログラムの互換性] タブを無効にしたり、Windows エラー報告の設定を構成したりして、データがマイクロソフトに送信されないようにすることができます。

[ページのトップへ](#)

プログラム互換性ウィザード

この機能について

アプリケーションに互換性の問題がある場合は、このウィザードを使用してプログラムの動作方法を調節し、このバージョンの Windows でプログラムが正常に実行するよう試してみることができます。

収集、処理、または送信される情報

ユーザーが送信することを選択した場合は、プログラム互換性ウィザードの実行結果が、Windows エラー レポートとしてマイクロソフトに送信されます。レポートには、設定やインストールしているアプリケーションで発生した問題の情報が含まれます。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。

Windows のエラー レポートとユーザーのプライバシーに関する詳細については、[Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する](#)

[声明](#)を参照してください。[互換性] タブの詳細については、Windows ヘルプとサポートのトピック「このバージョンの Windows で古いプログラムを実行する方法」を参照してください。

情報の用途

プログラム互換性ウィザードによってマイクロソフトに送信される情報は、このバージョンの Windows で実行したプログラムでアプリケーションの互換性に関する問題が発生した場合に調整する必要がある設定を判別するために使用されます。

選択および管理

ユーザーは、情報をマイクロソフトに送信するかどうかの指定を求められます。管理者は、グループ ポリシーを使用することで、プログラム互換性ウィザードを無効にしたり、マイクロソフトへのデータの送信を回避したりすることができます。

[ページのトップへ](#)

プロパティ

この機能について

プロパティは、ファイルの迅速な検索と編成を可能にする情報のセットです。また、アプリケーションでは、プロパティを使用することでアプリケーション固有のタスク（写真の露出の補正など）を実行できます。プロパティには、ファイルに固有のもの（ファイルのサイズなど）と、アプリケーションやデバイスなどに固有のもの（写真を撮影するときのカメラの設定など）があります。ファイルに対するプロパティを表示し、一部のプロパティについては、設定する情報を選択することができます。たとえば、ファイルをだれかと共有する前には、キーワードやコメントを変更または削除した方が良いでしょう。

収集、処理、または送信される情報

収集される情報の種類は、ファイルの種類と、ファイルを使用するアプリケーションによって異なります。プロパティには、ファイル名、更新日時、ファイルのサイズ、作成者、キーワード、コメントなどがあります。プロパティはファイルに格納されており、ファイル共有などの別の場所にファイルを移動またはコピーする場合、またはファイルを電子メールの添付ファイルとして送信する場合は、ファイルと共に移動されます。

情報の用途

プロパティを利用すると、ファイルの検索と整理を効率的に行うことができます。また、アプリケーションでは、プロパティを使用することでアプリケーション固有のタスクを実行できます（写真の露出の補正など）。ファイルを Microsoft に送信することをユーザーが選択しない限り、プロパティがマイクロソフトに送信されることはありません。

選択および管理

ファイルに対するプロパティの一部は、Windows エクスプローラのプレビュー ウィンドウを使用して、またはファイルを右クリックして [プロパティ] を選択することで、変更または削除できます。変更日、ファイル サイズ、ファイル名などの一部の組み込みプロパティおよび一部のアプリケーション固有のプロパティは、この方法では削除できません。アプリケーション固有のプロパティの場合は、ファイルの生成に使用したプログラムがこれらの機能をサポートしている場合のみ、プロパティを変更または削除できます。プロパティの変更または削除に関する詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

登録

この機能について

Windows Vista ソフトウェアの登録は任意であり、いつでも行うことができます。登録することで、Windows Vista を最大限に活用するのに役立つヒント、クリエイティブなヒント、およびその他の情報を入手できます。

収集、処理、または送信される情報

登録処理を完了するには、氏名、電子メールアドレス、国または地域など、ユーザー自身に関するいくつかの情報を提供していただく必要があります。さらに、実行している Windows のバージョン、コンピュータ ハードウェアの種類、プロダクト キーの一部など、ユーザーのコンピュータに関するいくつかの情報が自動的に送信されます。

情報の用途

収集された情報は、ユーザーのニーズについてよりよく理解し、Windows Vista に関する情報をユーザーに提供するために使用されます。部分的なプロダクト キーの情報は、コンピュータの製造元およびコンピュータが購入された経路を識別するために使用されます。ユーザーのコンピュータを一意に識別するためにプロダクト キーの一部が使用されることはありません。登録の更新方法など、登録情報のプライバシーに関する詳細については、マイクロソフトの Web サイトで [Microsoft オンライン プライバシーに関する声明](#) をお読みください。

選択および管理

Windows Vista のオンライン登録には、コントロール パネルの [システムとメンテナンス] の [ウェルカム センター] からアクセスできます。登録情報を更新するには、マイクロソフトの Web サイトの [Microsoft オンライン プライバシーに関する声明](#) で提供されている、ユーザーのプロファイルの更新方法の説明に従ってください。

[ページのトップへ](#)

Rights Management Services (RMS) クライアント

この機能について

Rights Management Services (RMS) クライアント ソフトウェアは、RMS 対応アプリケーションで動作する情報保護テクノロジーで、オンライン/オフライン、ファイアウォールの内部/外部を問わず、認証されていないユーザーによってデジタル情報が使用されることを防止します。RMS を使用すると、情報の受け取り手に許可するファイルに含まれる情報の使用条件を定義することができます。たとえば、情報の閲覧、更新、印刷、転送、またはファイルに関するその他の操作を実行できるユーザーを定義することができます。アクセス許可が制限されたファイルを作成または表示するには、コンピュータが RMS 対応アプリケーションを実行していることと、RMS サーバーへのアクセス権が与えられていることが必要です。

収集、処理、または送信される情報

RMS は、ユーザーの電子メール アドレスを使用してユーザーを識別します。ユーザーの電子メール アドレスは、RMS によって作成された使用ライセンスと証明書があるユーザー自身のコンピュータに保存されます。証明書と使用ライセンスは、RMS サーバーとコンピュータ

の間で送信されます。ユーザーのコンピュータがエンタープライズ環境またはネットワーク環境の一部である場合、RMS サーバーは、通常、企業によって所有され、企業内に置かれています。Windows Live サービスを使用している場合は、サーバーはマイクロソフトの RMS サーバーになります。ユーザーの電子メールアドレスも、RMS サーバーに保存されます。マイクロソフトの RMS サーバーへの情報の送信には、Secure Socket Layer (SSL) プロトコルが使用されます。

情報の用途

使用ライセンスは、保護された情報にアクセスするために利用されません。証明書は、RMS サーバーでユーザーを識別するために使用され、情報の保護および保護された情報へのアクセスに利用されます。

選択および管理

RMS クライアント機能は既定では有効でなく、ユーザーはこの機能を有効にしなくても、または使用しなくてもかまいません。ただし、この機能を有効にしないと、アクセス許可が制限されたファイルを開くことはできません。

[ページのトップへ](#)

音声認識機能

この機能について

Microsoft Speech Recognizer for Windows は、Windows と任意のアプリケーションに音声認識機能を提供します。Microsoft Speech Recognizer による音声認識機能は、学習機能を有効にすることで、精度が向上していきます。学習機能は、ユーザーが好んで使用するサウンドや語句、単語の相対的な使用頻度、文法の使い方など、ユーザーの会話方法を学習することで、音声認識の精度を高めます。

Microsoft Speech Recognizer は、ユーザー辞書も使用します。ユーザー辞書には、語句とその発音の一覧が含まれます。音声辞書を使用して新しい語句を追加したり、新しい発音を既存の語句に追加したりすると、エントリがユーザー辞書に保存されます。Tablet PC ユーザーの場合は、手書き認識用に追加する語句もユーザー辞書に登録されます。

収集、処理、または送信される情報

学習機能が有効になっていると、作成したドキュメント内のテキストが収集され、通常、3語に区切られて保存されます。この際、音声入力中に行った修正内容も一緒に保存されます。さらに音声辞書を使用して、特定の語句をユーザー辞書に追加できます。

この情報は、個人の音声プロフィールに保存されます。音声プロフィールはユーザー別に保存され、ユーザーが同じコンピュータ上の他のユーザーのプロファイルにアクセスすることはできません。管理者は、コンピュータ上のすべてのプロフィールにアクセスできます。この情報は、マイクロソフトには送信されません。

情報の用途

Microsoft Speech Recognizer は、ディクテーション中にユーザー辞書の語句を使用します。さらに、ユーザーが作成したテキストを解析することでユーザーの話し方を学習します。また、音声の入力中に行われた修正内容を解析し、その解析結果を基にユーザーが使用する言葉に対する重み付けを決定します。これにより、音声認識の精度が高まります。

選択および管理

すべてのユーザーは、音声認識機能の学習機能を有効または無効にすることができます。さらに、コントロールパネルの [コンピュータの簡単操作] にある詳細な音声認識オプションを使用することで、音声プロフィール (および大部分の学習機能データ) を削除することができます。音声辞書の [既存の単語の変更] オプションを使用して、ユーザー辞書に追加した語句を削除することもできます。音声プロフィールを削除しても、ユーザー辞書は削除されません。ユーザープロフィールを他のコンピュータで使用する場合、追加してあるユーザー固有の単語は、削除していない限り、他のコンピュータに格納できます。

[ページのトップへ](#)

トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) サービス

この機能について

トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) セキュリティ ハードウェアはコンピュータに組み込まれたマイクロチップで、初期化することにより BitLocker™ ドライブ暗号化などの高度なセキュリティ機能を利用することができます。

トラステッド プラットフォーム モジュールでは、Version 1.2 の TPM を使用するセキュリティ機能用のソフトウェア コンポーネントのセットが提供されます。トラステッド プラットフォーム モジュールには、TPM の初期化と管理用のツール、ドライバ、およびアプリケーションで TPM の使用を共有するためのソフトウェア レイヤが含まれます。

収集、処理、または送信される情報

トラステッド プラットフォーム モジュールには TPM 初期化機能が含まれ、TPM を有効にしたり所有者を作成したりするのに役立ちます。初期化処理では、TPM の所有者パスワードを作成するように要求されます。コンピュータの TPM を使用するには、TPM 所有者パスワードを作成する必要があります。TPM 所有者のパスワードを用意することにより、TPM の管理機能へのアクセスを制限することができます。TPM 所有者のパスワードを保存しておくことで、TPM へのアクセスを容易に管理できます。

TPM 初期化ウィザードを使用すると、TPM 所有者のパスワードを印刷したり、USB フラッシュ ドライブ上のファイルにそのパスワードを保存することができます。保存したファイルには、TPM 所有者のパスワードから生成された TPM 所有者の承認情報が含まれます。このファイルには、コンピュータ名、オペレーティング システムのバージョン、作成者、および作成日の情報も含まれています。これらの情報はファイルを確認する際に役立ちます。企業環境では、管理者は、グループ ポリシーを構成することで、この TPM 所有者の情報を Active Directory ドメイン サービスに自動的に保存することができます。

各 TPM には暗号化された固有の "承認キー" があり、このキーは信頼性を識別するために使用されます。承認キーの作成と TPM での保存はコンピュータの製造元によって行われる場合がありますが、それ以外の場合は、Windows によって TPM 内での承認キーの作成がトリガされる必要があります。承認キーは、TPM の外部には決して完全に公開されることがなく、いったん作成されるとリセットできません。

TPM を初期化すると、アプリケーションは TPM を使用して一意な暗号化キーを追加作成し、このキーをセキュリティで保護することができます。たとえば、BitLocker ドライブ暗号化は、TPM を使用してハード ドライブを暗号化するキーの保護を支援します。

情報の用途

TPM 所有者のパスワードをファイルに保存した場合は、このファイルに保存されているコンピュータおよびユーザーに関する追加情報が、一致するコンピュータおよび TPM の識別に役立ちます。TPM の承認キーは、TPM に送信される TPM 所有者のパスワードを暗号化するために、TPM の初期化中にのみ Windows によって使用されます。暗号化キーが外部のコンピュータに送信されることはありません。

選択および管理

コンピュータの TPM を初期化した後、管理者はコマンド管理機能を利用して、選択した TPM 機能へのアクセスを制限することができます。既定では、個人情報をも明らかにする TPM コマンドや、以前のバージョンのハードウェアから削除された TPM コマンド、あるいは現在では使用していない TPM コマンドをブロックします。管理者は、このブロック リストを変更することができます。

ユーザーは TPM をいつでも無効にすることができます。TPM をオフにすると、コンピュータ上のソフトウェアでは TPM の暗号化機能を使用できなくなります。また、TPM をクリアして工場出荷時の状態に戻すことができます。TPM をクリアすると、所有者情報や、TPM の使用中にアプリケーションが作成した、承認キーを除くすべての TPM ベースのキーや暗号化データが削除されます。

[ページのトップへ](#)

ルート証明書の更新

この機能について

直接信頼されていない証明機関から発行された証明書（コンピュータにある信頼される証明書の一覧に格納されていない証明書）をアプリケーションが受け取った場合、ルート証明書の更新機能はオンラインの Windows Update サービスに問い合わせを行い、信頼された機関の一覧にこの証明機関が登録されているかどうかを確認します。マイクロソフトの信頼された機関の一覧に証明機関が登録されている場合、その証明書は自動的にコンピュータの信頼された証明書の一覧（証明書ストア）に追加されます。

収集、処理、または送信される情報

ルート証明書の更新は、オンライン Windows Update サービスに要求を送信して、Microsoft ルート証明書プログラムにある最新のルート証

明機関の一覧を要求します。信頼されていない証明書が一覧に登録されている場合、Windows Update から該当する証明書を取得し、コンピュータの信頼された証明書ストアに配置します。マイクロソフトは、このプロセスの間に転送された情報を使用して、ユーザーを識別したり、ユーザーに連絡したりすることはありません。

Windows Update およびプライバシーに関する詳細については、[Windows Update のプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

情報の用途

情報は、コンピュータの信頼された証明書ストアを更新するためにマイクロソフトによって使用されます。

選択および管理

ルート証明書の更新は、既定では有効になっています。コンピュータでルート証明書の更新を無効にする方法については、Microsoft TechNet Web サイトの [Windows Vista でのインターネットによる通信の管理に関する記事](#) (英語の可能性あり) を参照してください。

その他の情報

直接信頼されていない証明機関から発行された証明書を受け取った際、ルート証明書の更新コンポーネントがコンピュータにインストールされていないと、認証に必要な操作を完了することはできません。たとえば、ソフトウェアのインストール、暗号化またはデジタル署名された電子メール メッセージの表示、ブラウザを使用した Secure Socket Layer (SSL) セッションの処理などは実行できません。

[ページのトップへ](#)

UPnP テクノロジ

この機能について

UPnP テクノロジは、ネットワーク デバイスに対するピア ツー ピア デバイス制御を実現します。UPnP テクノロジを利用すると、標準ベースのプロトコルを介してデバイスやサービスを検出および制御することができます。

収集、処理、または送信される情報

検出プロセスにおいて各機能から提供された IP アドレスを使用する
UPnP

と、コンピュータは デバイスからステータスの変更を含む情報を受信することができます。UPnP デバイスから URL (Uniform Resource Locator) が提供されている場合は、ブラウザを使用して製造元から提供されている制御機能、情報、またはデバイス固有の機能にアクセスすることができます。

情報の用途

交換される情報には、デバイスとそのサービスに関する基本的な情報や、デバイスの製造元、モデル、シリアル番号などの情報を収集するために使用できる URL が含まれます。この情報には、デバイスとサービスの一覧や、機能にアクセスするための URL を含めることができます。

選択および管理

ネットワーク上の UPnP デバイスの検出を許可または禁止するには、Windows の SSDP (Simple Service Discovery Protocol) ディスカバリ サービスを有効または無効にします。UPnP デバイスによるネットワーク通信を許可する前に、ネットワークの安全性を確認することをお勧めします。たとえば、ケーブル モデムを使用してインターネットに接続している場合は、ルーターを設置してネットワーク範囲を他と分離することを検討してください。また、ワイヤレス ネットワークを使用している場合は、Wired Equivalent Privacy (WEP) や Wi-Fi Protected Access (WPA) などのセキュリティで保護されたサービスを有効にしてください。ワイヤレス ネットワークのセキュリティによる保護の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows Anytime Upgrade

この機能について

Windows Anytime Upgrade を使用すると、必要なアップグレードを購入できるパートナーの Web サイトにアクセスして、お使いのバージョンの Windows Vista を簡単にアップグレードできます。

収集、処理、または送信される情報

Windows Anytime Upgrade を使用すると、Microsoft の Web サイトに移動します。ご使用になっている Windows Vista のエディションと国

または地域コード、希望するアップグレード後のバージョン、現在のオペレーティング システムを購入したベンダ、アップグレード要求を送る先のパートナーなど、いくつかの追加情報も送信されます。

情報の用途

情報は、ユーザーとパートナーを結び付け、ユーザーのコンピュータを正しいバージョンの Windows にアップグレードできるようにするために使用されます。情報は、最初にマイクロソフトのサーバーに送信されて監査のために使用された後、適切なパートナーに転送されません。

選択および管理

いつでもアップグレードを開始できます。また、評価と購入のプロセスはいつでも取り消すことができます。管理者は、グループ ポリシーを使って、Windows Anytime Upgrade を無効にできます。

Windows Anytime Upgrade の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows カレンダー

この機能について

Windows カレンダーを利用すると、予定や仕事を簡単に管理したり、作成した予定表を公開して他のユーザーと共有することができます。

収集、処理、または送信される情報

カレンダーで入力した情報は、お使いのコンピュータにローカルに保管されます。カレンダーの公開を選択した場合は、ユーザーが選択したホスト サーバーに情報がエクスポートされ、ホスト サーバーのカレンダーを購読するすべてのユーザーがその情報を利用できるようになります。購読者は、カレンダーを公開したユーザーの予定の概要情報 (またはタイトル) を見ることができます。公開者は、予定表のメモ、イベントのタイトル、アラーム、仕事などの他の情報を共有するように選択できます。予定表の情報を更新すると、設定に従って更新内容が購読者に送信されます。

情報の用途

カレンダーは、予定や仕事の追跡に役立ちます。カレンダー情報を公開すると、他のユーザーも同じことができるようになります。カレンダーを公開する場合は、他のユーザーに見られたくない個人情報を予定表に入力しないことをお勧めします。

選択および管理

ユーザーは、予定表のメモ、イベント タイトル、アラーム、または仕事を公開するかどうかを予定表ごとに選択することができます。予定表を公開すると、購読者との間で予定表の更新情報を自動的に同期するかどうかを選択できます。パスワードで保護し、信頼できる友人や家族だけがアクセスおよび表示できるように購読者を制限した上で、予定表を公開することもできます。公開した予定表は、ユーザー自身がいつでもホスト サーバーから削除できます。公開された予定表をホストするサーバーの所有者が契約先の ISP (Internet Service Provider) またはその他のサード パーティであることも考えられます。サードパーティに情報を送信する場合、情報の使用はサードパーティのプライバシーに関する規則によって管理されます。

[ページのトップへ](#)

Windows グループ作業ツール テクノロジ

近くの人との接続

この機能について

"近くの人との接続" のサービスを使用すると、コンピュータを使用しているローカル ネットワーク (サブネット) 上で近くにいるユーザーを識別し、Windows ミーティング スペースなどのプログラムに対する招待をこれらのユーザーから送ってもらえるようにすることができます。招待してもらえるのは、こちらのコンピュータにインストールされているプログラムについてのみです。"近くの人との接続" を使用するには、サービスにサインインする必要があります。

収集、処理、または送信される情報

既定では、"近くの人との接続" 表示名、コンピュータ名、および IP アドレスが、ローカル ネットワーク上のすべてのユーザーに公開されます。選択した場合は、ユーザー アカウント画像 ([スタート] メニューに表示される画像) も公開されます。"近くの人との接続" を使用するプログラムでは、他のユーザーが表示できる追加情報を公開する場合があります。

情報の用途

この情報がマイクロソフトに送信されて使用されることはありません。情報を表示できるのは、ローカル ネットワーク (サブネット) 上のユーザーのみです。

選択および管理

ログオン時に "近くの人との接続" に自動的にサインインして使用できるようにするか、またはサービスを使用したいときにその都度サインインするかを選択できます。また、"近くの人との接続" の表示名およびユーザー アカウント画像も選択できます。

Windows ミーティング スペース

この機能について

Windows ミーティング スペースを利用すると、会議室にいるユーザーとの共同作業やインターネットを介しての共同作業を効果的に行うことができます。この機能を利用することで、ファイルの共有、他のユーザーへのデスクトップやアプリケーションのストリーム処理、および会議への出席者の管理を行うことができます。また、ワイヤレス ネットワークを作成すれば、時間と場所を選ばずに共同作業を行うことができます。

収集、処理、または送信される情報

Windows ミーティング スペース セッションの間は、"近くの人との接続" 表示名、IP アドレス、およびコンピュータ名と、ユーザー タイル (通常は Windows の [スタート] 画面に表示される画像) がすべての参加者に公開されます。

情報の用途

ユーザーの情報は、他の Windows ミーティング スペースの参加者がユーザーを識別するために使用されます。この情報を表示できるのは、Windows ミーティング スペースの参加者のみです。この情報がマイクロソフトに送信されて使用されることはありません。

選択および管理

ユーザーは参加したい会議を選択できます。また、"近くの人との接続" 表示名、ユーザー タイル、および他の参加者と共有するファイルを選択することもできます。ユーザー タイルについては、"近くの人との接続" の [個人用の設定] ダイアログ ボックスでオプションを選択

解除することにより、他のユーザーと共有されないように設定できます。自分が参加している各 Windows ミーティング スペース セッションへの他の参加者についての通知を受け取ります。

[ページのトップへ](#)

Windows コントロール パネル

この機能について

コントロール パネルには、検索ボックスが用意されています。これを使用すると、コントロール パネルに含まれる多くのタスクの中から自分が目的としているタスクを簡単に見つけ出すことができます。

収集、処理、または送信される情報

コントロール パネルの検索結果の改善を選択した場合は、検索ボックスに入力したクエリがマイクロソフトに送信されます。マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。クエリがマイクロソフトに送信されるのは、コントロール パネルの検索ボックスから入力した場合だけです。検索ボックスの他の実装からクエリが送信されることはありません。

情報の用途

送信される情報は、コントロール パネルに含まれるタスクに関するより正確なキーワードをユーザーに提供するために使用されます。

選択および管理

Windows が既定でマイクロソフトにクエリ情報を送信することはありません。意向をたずねられたときに情報の送信を承認することで、コントロール パネルの検索ボックスのクエリをマイクロソフトに送信することを選択できます。検索を実行するときに、コントロール パネルで提供されているオプションを使用することで、いつでもクエリの送信を停止できます。

[ページのトップへ](#)

Windows ヘルプ

Windows オンラインのヘルプとサポート

この機能について

この機能を有効にして使用すると、インターネットに接続されているときに Windows オンラインのヘルプとサポートを検索して、最新のコンテンツを取得することができます。

収集、処理、または送信される情報

Windows オンラインのヘルプとサポートの使用を選択すると、検索クエリがマイクロソフトに送信されます。同様に、表示されたヘルプトピックについて入力した評価やフィードバックも送信されます。個人を特定できるような情報を Windows オンラインのヘルプとサポートを介してマイクロソフトが意図的に収集することはありません。ユーザーが検索ボックスまたはフィードバック ボックスに情報を入力した場合、その入力情報は送信されますが、ユーザーを特定したりユーザーに連絡したりする目的でこれらの情報をマイクロソフトが使用することはありません。

情報の用途

マイクロソフトでは、収集した情報を使用して、ユーザーの検索クエリに対して最も関連性の高いヘルプ トピックを返し、新しいコンテンツを作成し既存のコンテンツの向上を図ります。

選択および管理

Windows オンラインのヘルプとサポート オプションは、既定で無効になっています。Windows オンラインのヘルプとサポートから返される結果は、オプションをオンにしていない限り、ヘルプ システムの使用時に取り込まれません。Windows ヘルプとサポートを初めて使用するとき、Windows オンラインのヘルプとサポートを選択できます。後で選択を変更する場合は、[オプション] メニューの [設定] を選択するか、または [ヘルプ] ウィンドウの右下隅にあるトグル メニューで [オンライン ヘルプの表示] を選択してください。

ヘルプ機能向上プログラム

この機能について

ヘルプ機能向上プログラムは、ヘルプの使用方法に関する傾向を識別し、検索で返される結果やコンテンツの適正さを向上させるために役立ちます。この情報は、今後の Windows ヘルプとサポートにおける操作性を向上させるために使用されます。Windows オンラインのヘルプとサポートの使用を選択した場合に限り、ヘルプ機能向上プログラムに参加できます。

収集、処理、または送信される情報

ヘルプ機能向上プログラムは、ユーザーのコンピュータで稼働している Windows のバージョン、および Windows ヘルプとサポートを検索するときに入力したクエリなどの Windows ヘルプとサポートの使用方法に関する情報を、マイクロソフトに送信します。

情報の用途

収集されたデータは傾向や使用パターンの識別に使用され、提供するコンテンツの品質や検索結果の妥当性の向上を図ることができます。マイクロソフトは、ユーザーに連絡したりユーザーを識別したりするためにこの情報を使用することはありません。

選択および管理

ヘルプ機能向上プログラムのオプションは、既定で無効になっています。ユーザーがオプションをオンにしていない限り、ヘルプ機能向上プログラムに登録されることはありません。この機能を有効または無効にするには、[オプション] メニューの [設定] を選択するか、または [ヘルプ] ウィンドウの右下隅にあるトグルメニューで [オンライン ヘルプの表示] を選択します。管理者はグループ ポリシーを使用することで、マイクロソフトへのデータの送信を回避したり、このデータにヘルプ機能向上プログラムの情報と検索クエリのみが含まれるように制限したりできます。

[ページのトップへ](#)

Windows メール

この機能について

Windows メールは、電子メールとニュース グループを備えています。Windows メールには、受信トレイのカスタマイズ規則、オフラインの同期、クイック検索、迷惑メールおよびフィッシング メール フィルタなどの機能があります。また、ニュースグループ メッセージに関する情報 (評価やランク付けなど) を表示するコミュニティ サービスも備えています。ニュースグループ サーバーの管理者がコミュニティのサポートを選択すると、ニュースグループ メッセージと共にこれらの追加コミュニティ機能が表示されます。

収集、処理、または送信される情報

電子メール サーバーに接続するために、ユーザーは メールに電子メール アカウント情報とサーバー名を入力する必要があります。また、電子メールを送信した相手の電子メール ヘッダーに表示される表示名を指定することもできます。ユーザーがマイクロソフトに電子メールを送信するか、Windows Live メール、Hotmail、MSN メールなどのマイクロソフトの電子メール サービスを利用しない限り、マイクロソフトに情報が送信されることはありません。ユーザーが送信または受信する電子メールは、お使いの電子メール サービス プロバイダが処理します。電子メール サービス プロバイダによるそのような情報の使用はすべて、プロバイダのプライバシーに関する規則によって管理されます。

コミュニティを有効にすると、Windows メールを開始するたびに、ニュースグループ サーバーがメッセージの評価やランク付けなどのコミュニティ機能をサポートしているかどうかチェックされます。高度なコミュニティ機能（ニュースグループへの投稿を評価およびランク付けする機能など）を使用するには、Windows Live ID 資格情報にサインインする必要があります。Windows Live ID の詳細については、[Microsoft オンライン プライバシーに関する声明](#)を参照してください。

Windows メールは、Windows Vista の連絡先フォルダを使用して、連絡先を保存および整理します。連絡先に関する情報はマイクロソフトに送信されません。

情報の用途

ユーザーの電子メール アカウント情報は、電子メール サーバーに対する接続を確立し、ユーザーが選択した名前を電子メール受信者に提供するために使用されます。さらに、Windows Live ID にサインインすれば、ニュースグループ リーダーの高度なコミュニティ機能を使用できます。

選択および管理

Windows メールに電子メール アカウント情報や電子メール サーバー名を入力したくない場合は、他の電子メール アプリケーションを使用して電子メール サーバーに接続してもかまいません。電子メール用にWindows メールを使用しなければ、プログラムによって情報が収集されることはありません。Windows メールを使用する場合は、表示名を選択および変更したり、表示名を使わないことを選択したりできます。ニュースグループを初めて購読するときに、コミュニティを有効

にできます。また、Windows メールで提供されているオプションを使用すれば、いつでもコミュニティの使用を停止できます。

[ページのトップへ](#)

Windows ムービー メーカー

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックス

この機能について

ユーザーが作成したムービーを確認および整理しやすいように、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログには各ムービーのタイトル、作成者、説明、視聴制限、著作権などの情報を入力できます。

収集、処理、または送信される情報

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスに入力した情報がマイクロソフトに送信されることはありません。ただし、Windows ムービー メーカーのプロジェクト ファイルまたはムービー ファイルにアクセスできるユーザーであれば誰でもこれらの情報を参照することができます。

情報の用途

完成したプロジェクトをコンピュータまたはデバイスに公開する手順を案内する Publish Movie 機能は、[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスに入力した情報をムービーと共に保存します。この情報は、ユーザーがムービーをメディア プレイヤーで再生したときに表示されます。

選択および管理

[プロジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスには、他のユーザーが公開したムービーを視聴しているときに共有したい個人情報のみを入力してください。Windows ムービー メーカーの [ツール] メニューで提供されているオプションを使用して、公開するムービーにこの情報を含めないよう指定できます。

クリップの削除

この機能について

Windows ムービー メーカーのコレクション フォルダ、ストーリーボードまたはタイムラインから、または Windows フォト ギャラリーか

らクリップを削除できます。クリップを定義する情報は削除されますが、デジタルメディアファイル自体は削除されません。

収集、処理、または送信される情報

クリップ情報には、クリップを作成した場所やファイル名、ファイルの種類、およびメディア固有の情報（撮影時間や撮影日など）が含まれます。クリップを削除しても、クリップがポイントしているデジタルメディアファイルは削除されません。

選択および管理

デジタルメディアファイルは、Windows エクスプローラを使用して削除できます。

[ページのトップへ](#)

Windows 印刷スプーラ

この機能について

Windows 印刷スプーラは、印刷を有効にするさまざまな機能に利用されます。

収集、処理、または送信される情報

印刷ジョブ データが、スプーラ ディレクトリのスプール ファイルに収集および保存されます。Microsoft Postscript Print Driver などのプリンタ ドライバによって送信されるジョブのカバー データには、ユーザー名、ジョブ名、およびジョブのサイズが含まれ、スプールされたデータと共に、スプーラ ディレクトリのシャドウ ファイルに保存されます。このデータは、プログラマ的なインターフェイスを通じてサードパーティ製アプリケーションによって利用され、さまざまな標準プロトコルをとおして転送できます。印刷キュー データはレジストリに格納されます。また、ポートもレジストリに格納され、リモートユーザーも含めて、プリンタを追加したコンピュータにログオンしているすべてのユーザーが、ポートを作成または表示できます。言語モニタ、ドライバ、ポート モニタ、プリント プロバイダなどのインストール可能なコンポーネントも、Everyone グループに属しているユーザーであれば、リモートおよびローカルにかかわらず表示することができます。この情報は、マイクロソフトには送信されません。

情報の用途

情報は、Windows の印刷機能を有効にするために使用されます。ジョブ データは、処理されているジョブの状態をユーザー、管理者、および管理ツールに示すために使用されます。印刷されているドキュメントの内容は、ドキュメントの所有者とシステム管理者だけが利用できます。

選択および管理

コントロール パネルのサービス管理ツールを使用して、スプーラ サービスを無効にできます。ただし、スプーラ サービスを無効にすると、印刷を行うことができなくなります。スプール ファイルの書き込みはすべてのユーザーが既定で行うことができますが、スプール ファイルの読み取りおよび更新のアクセス許可を持つのは管理者のみです。ジョブのカバー データにはユーザー名、ジョブ名、ジョブ サイズなどの情報が含まれ、すべてのユーザーがこれを参照することができます。

[ページのトップへ](#)

Windows 問題レポート

この機能について

Windows Vista を含むマイクロソフトの多くのソフトウェア プログラムが、Microsoft エラー報告サービスと連携するように作られています。このようなソフトウェア プログラムのいずれかで問題が発生すると、レポートを送信して解決策を確認できるようにするかどうかをたずねられます。レポートを送信する前にレポートの詳細を見ることができますが、人間には判読できない形式のファイルが含まれている場合があります。

Microsoft エラー報告サービスは、ユーザーが使用しているソフトウェアでの問題を、マイクロソフトおよび Windows のパートナーが診断して解決策を提供するのを支援します。解決策のない問題もありますが、解決策がある場合は、ユーザーが報告した問題を解決するための手順として、またはインストールに対する更新として、解決策が提供されます。

Windows Vista では、問題が発生するたびにユーザーに同意を求めるのではなく、自動的に問題を報告できます。自動レポートを使用する場合は、通常、レポートを送信する前にレポートの情報の確認を求められません。ただし、ユーザー（あるいはユーザーのシステム管理者

またはネットワーク管理者)が問題の報告を選択しない限り、情報は送信されません。いつでも問題の報告を停止できます。

収集、処理、または送信される情報

Windows 問題レポートは、ユーザーの作業を中断させた問題に関する情報、および水面下で発生しているエラーに関する情報を収集できます。レポートには意図的にではなく個人情報が含まれてしまう場合がありますが、マイクロソフトは、個人を特定したり、お問い合わせの目的で情報を使用することはありません。たとえば、コンピュータのメモリのスナップショットを含むレポートには、ユーザーの名前、ユーザーが作業していたドキュメントの一部、ユーザーが最近 Web サイトに送信したデータなどが含まれる場合があります。レポートに個人情報や機密情報が含まれることが心配な場合は、レポートを送信しないでください。レポートにこの種の情報が含まれる可能性がある場合は、自動レポート送信が有効になっていたとしても、Windows はレポートを送信するかどうかをユーザーにたずねます。これにより、ユーザーは、マイクロソフトに送信される前にレポートを確認できます。

マイクロソフトにまだ送信されていないレポート、およびそれに添付されているファイルやデータは、コンピュータに保管しておき、後で時間ができてから内容を確認した後、送信することができます。既に送信されたレポート、およびそれに添付されているファイルやデータも、コンピュータに保存できます。

エラー レポートに含まれる可能性のあるデータの詳細については、[Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

情報の用途

マイクロソフトは、エラーおよび問題に関する情報を使用して、Windows および Windows オペレーティング システムで使用するよう設計されているソフトウェアとハードウェアを改善します。マイクロソフトの社員、契約者、ベンダ、およびパートナーには、レポート サービスで収集された情報へのアクセスが許可される場合があります。ただし、情報の使用目的は、これらの関係者が公開または製造する製品を修理または改善することに限られます。エラー レポートのデータの使用方法に関する詳細については、[Microsoft エラー報告サービスのプライバシーに関する声明](#)を参照してください。

選択および管理

問題の履歴の表示、新しい解決策の確認、問題レポートと解決策の削除などを行うには、コントロールパネルの [問題のレポートと解決策] を使用するか、または Windows ヘルプとサポートで詳細を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows ターミナル サービス クライアント

リモート デスクトップ接続

この機能について

Windows ターミナル サービス クライアント ソフトウェア (リモート デスクトップ接続) は、Windows ターミナル サービスを実行している ホスト コンピュータとリモート接続を確立する方法を提供します。

収集、処理、または送信される情報

接続設定は、ユーザーのコンピュータ上のリモート デスクトップ プロトコル (RDP) ファイルに保存されます。これらの設定には、ユーザーのドメインの名前と、リモート コンピュータ名、色のビット深さ、有効になっているセッション デバイス、オーディオ、クリップボードなどの接続構成設定が含まれます。これらの接続の資格情報は、ターミナル サービス プロキシの資格情報と一緒に、ユーザー名およびパスワードの保存を使用して保存されます。信頼されたターミナル サービスのゲートウェイ サーバー名の一覧は、レジストリに保管されます。この一覧は、管理者が削除しない限り永続的に保管され、サードパーティ製または他の Windows コンポーネントと共有されることはありません。この情報は、マイクロソフトには送信されません。

情報の用途

データはコンピュータから収集されるので、好みの設定を使用してサーバー (Windows ターミナル サービスを実行しているリモート コンピュータ) に接続できます。ユーザー名、パスワード、およびドメインの情報は、接続設定を RDP ファイルに保存して、このファイルをダブルクリックすることで接続を開始できるように収集されます。

選択および管理

ユーザーは、リモート デスクトップ接続を使用するかどうかを選択で

きます。使用する場合、ファイルが自動的に保存されたときに構成されたオプションと設定など、リモート コンピュータに接続するために必要な情報は、RDP ファイルに含まれています。同じコンピュータに異なる設定で接続するためのファイルなど、RDP ファイルをカスタマイズすることができます。リモート デスクトップ接続の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

その他の情報

RDP ファイルに格納されているデータの詳細については、オンラインで Microsoft Developer Network (MSDN) の記事 [Win32_TSRemoteControlSetting](#)(英語の可能性あり) を参照してください。リモート デスクトップ接続の詳細については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

Windows リモート アシスタンス

この機能について

Windows リモート アシスタンスを使用すると、近くにだれもいなくても、だれかに自分のコンピュータに接続してもらって、コンピュータの問題の解決を手助けしてもらうことができます。接続した後は、他のユーザーは呼び出したユーザーのコンピュータ画面を見ることができ、2 人で見ているものについてチャットで会話できます。依頼したユーザーが許可すれば、ヘルパーは自分のマウスとキーボードを使用して依頼者のコンピュータを制御し、問題の解決方法を示すことができます。また、同じ方法でだれかを手助けすることもできます。

収集、処理、または送信される情報

Windows リモート アシスタンスは、インターネットまたは 2 台のコンピュータが両方とも接続しているネットワークをとおして、2 台のコンピュータの間に暗号化された接続を確立します。だれかが Windows リモート アシスタンスを使用してユーザーのコンピュータに接続すると、そのだれかは、ユーザーのデスクトップ、開いているドキュメント、および表示されている個人情報を見ることができます。さらに、ヘルパーが自身のマウスとキーボードを使用して依頼者のコンピュータを制御することを依頼者が許可すると、ヘルパーはファイルの削除や設定の変更などの操作を実行できます。情報はマイクロソフトに送信されません。

情報の用途

情報は、暗号化された接続を確立し、ヘルパーが依頼者のデスクトッ

ブにアクセスできるようにするために使用されます。収集されたりマイクロソフトに送信されたりするデータはありません。Windows リモート アシスタンスの詳細については、Windows ヘルプとサポートで **Windows** リモート アシスタンスに関するよくある質問 を参照してください。

選択および管理

ヘルパーに自分のコンピュータへの接続を許可する前に、見られたくないプログラムやドキュメントを閉じてください。ヘルパーの行動に気を付けてください。ヘルパーが自分のコンピュータで見たり行ったりしていることについて不安を感じたときにはいつでも、Esc キーを押してセッションを終了してください。

[ページのトップへ](#)

Windows タイム サービス

この機能について

Windows タイム サービスは、ユーザーのコンピュータの時刻をネットワーク上の信頼性の高いタイム サーバーと自動的に同期させ、ネットワークまたは組織のセキュリティとパフォーマンスを向上させます。

収集、処理、または送信される情報

このサービスは、信頼性の高いタイム サーバーに情報をネットワークパケットの形式で送信します。接続には、業界の標準的な NTP (Network Time Protocol) が使用されます。既定では、このサービスによって 1 週間に 1 度 time.windows.com と同期が取られます。サービスに関連する情報は、イベント ビューアで Windows のシステム イベント ログに保存されます。タイム サーバーの IP アドレスも、Windows のイベント ログ エントリに格納されます。また、サービスに関連する警告やエラーの情報が Windows のシステム イベント ログに保存されます。

情報の用途

収集される情報は、ローカル コンピュータの時刻をネットワーク上の信頼性の高いタイム サーバーと自動的に同期するために、Windows タイム サービスによって使用されます。

選択および管理

Windows タイム サービスは既定で有効になっています。コントロール パネルの [日付と時刻] で提供されているオプションを使用して、この機能を無効にしたり、希望するタイム ソースを選択したりできます。Windows タイム サービスを無効にしても、アプリケーションやその他のサービスに直接影響が及ぶことはありません。ただし、信頼性の高いタイム ソースがない場合、ローカル コンピュータの時計が、ネットワークやインターネット上の他のコンピュータと同期しなくなる可能性があります。ネットワーク接続されたコンピュータ間で時刻が大きく異なると、時刻に依存するアプリケーションやサービスが失敗したり、正しく動作しなくなる可能性があります。

[ページのトップへ](#)